南相馬市博物館年報

令和４年度

令和５年９月

南相馬市博物館

発刊にあたって

南相馬市博物館は、福島県営広域公園「東ケ丘公園」の「歴史と伝承ゾーン」に位置づけられた緑豊かな自然林の中に立地し、相馬野馬追祭場地東側の本陣山に隣接しています。

当館は、平成７年８月、歴史・民俗部門と自然部門に加え、相馬野馬追の資料を収集展示する特色ある「野馬追の里歴史民俗資料館」として開館し、翌平成８年には博物館法にもとづく登録博物館となりました。

平成10年４月には「野馬追の里原町市立博物館」へと名称を変更、さらに平成18年１月１日、小高町・鹿島町・原町市の旧３市町が合併し南相馬市が誕生したことに伴い「南相馬市博物館」と名称を改めました。

開館以来、「地域の歴史文化について理解を深め、文化の伝承と保存に努める」ことを目的に、常設展示のほか、企画展示や特別展示、さまざまな講座、講演、体験学習などの開催に加え、図録や研究紀要の刊行など、博物館事業の充実に努めてまいりました。

平成23年３月に発生した東日本大震災、特に東京電力㈱福島第一原子力発電所事故の影響により一時閉館しましたが、同年８月には、事業規模を縮小しながらも再開を果たしました。しかし、令和２年度から４年度には、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響により臨時休館をするなど、その対策を講じながら運営してきました。

本刊は、令和４年度の当館の運営状況や活動をまとめたものです。資料収集や調査研究、教育普及のほか、市民や他団体との連携の実績も掲載しました。

当館は、今後とも資料の調査研究や収集保存を積極的に行い、その成果を生かし、ふるさと教育を充実させつつ、地域文化の継承・向上に貢献してまいります。

これまで、ご支援、ご指導、ご協力賜りました方がたに深甚なる謝意を表しますとともに、今後とも当館の充実・発展のためにご支援を賜りますようお願い申しあげます。

令和５年９月

南相馬市博物館

館　長　堀　耕平

目　次

発刊にあたって
Ⅰ　南相馬市博物館の沿革 …… 1
Ⅱ　施設・設備の概要、機能 …… 5
1．建物の概要 …… 5
2．施設の概要 …… 5
3．施設の機能 …… 5
Ⅲ　常設展示事業 …… 6
1．展示の概要 …… 6
2．展示資料の概要 …… 6
Ⅳ　令和４年度事業実施概要 …… 8
1．企画展示事業 …… 8
2．その他の展示事業 …… 14
3．資料収集管理事業 …… 17
4．調査研究事業 …… 18
5．教育普及事業 …… 20
6．その他の事業 …… 27
7．情報発信 …… 28
Ⅴ　管理運営 …… 32
1．組織・職員 …… 32
2．各委員会等 …… 33
3．予　算 …… 35
4．入館者統計等 …… 35
Ⅵ　資　料 …… 37
1．南相馬市立博物館条例 …… 37
2．南相馬市立博物館規則 …… 38
3．南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会要綱 …… 41
4．南相馬市博物館収集展示委員会設置要綱 …… 42
5．南相馬市博物館収集展示委員会運営細則 …… 42
6．南相馬市博物館資料調査協力員会設置要綱 …… 43

Ⅰ　南相馬市博物館の沿革

平成２年６月　建設基本構想検討委員会・起草委員会・庁内検討委員会を設置
３年３月　第１回建設基本構想検討委員会を開催
４年１月　資料館建設庁内プロジェクトチーム設置
４月　資料館収集展示委員会設置
10月　資料館基本設計実施設計検討委員会設置
11月　資料館展示工事・建築工事基本設計業務委託
５年５月　資料館建築工事・展示工事実施設計業務委託
６年２月　建築工事現場工事着工
７年３月　建築完成引渡
８月　「野馬追の里歴史民俗資料館」開館
開館記念特別企画展「野馬追の歴史をふりかえる」
第１期「野馬追の歴史」展・第２期「馬の装い　鞍と鐙」展開催
８年４月　開館記念特別企画展「野馬追の歴史をふりかえる」
第３期「中ノ郷騎馬武者の甲冑」展・第４期「もののぐの優美」展開催
５月　博物館法に定める博物館に登録
８月　第３回企画展「縄文土器は語るー発掘された太古のくらし」開催
12月　第４回企画展「神々をまねくお神楽たちー獅子神楽の世界」開催
９年４月　第５回企画展「交通にみる近代化ー海岸線の開通」開催
７月　第６回企画展「造形の美ー当世具足の世界」開催
10月　第７回企画展「相馬中村藩の御仕法」開催
10年４月　「野馬追の里原町市立博物館」に名称変更
４月　第８回企画展「海の住人クジラー浜通りのクジラ化石」開催
６月　入館者５万人達成
７月　第９回企画展「武家の繁栄ー祈りのしるし」開催
10月　第10回企画展「絵図からみた原町の周辺ー江戸時代の地域観」開催
11年４月　第11回企画展「相馬のやきものー収蔵資料を中心として」開催
７月　第12回企画展「近世大名家の名品展ー奥州板倉家を中心として」開催
12年１月　第13回企画展「古代の瓦と今の瓦ー泉廃寺跡を中心として」開催
４月　福島県立美術館移動展「近代日本美術と相双の美術家たち」開催
７月　第14回企画展「鐙ーその歴史と美」開催
10月　第15回企画展「絵馬　祈りと願いー相双地方を中心として」開催
12月　映像「南相馬の炭焼き」第６回全国地域映像コンクール優秀賞受賞
13年４月　第16回企画展「相馬の鋳物師ーかなものの歴史と技術ー」開催
７月　「野馬追」展開催
８月　夏休み特別企画「原町の鳥たち」開催
14年１月　第17回企画展「篆刻の世界ー林泉汀作品を中心としてー」開催
４月　福島県文化財センター白河館巡回展「新編陸奥国風土記ー巻之一　白河郡」開催
７月　「野馬追」展開催
８月　入館者10万人達成

平成14年８月　夏休み特別企画「原始・古代のくらしと道具」開催
10月　第18回企画展「米づくりーむかしの暮らしの中で」開催
15年１月　第19回企画展「中村藩の炮術ー関流炮術を中心としてー」開催
４月　特別展「相馬地方の恐竜時代」開催
６月　第20回企画展「大名具足と相馬の武具」開催
７月　「野馬追」展開催
８月　夏休み特別企画「よみ・かき・そろばん①ー江戸時代の風景ー」開催
10月　第21回企画展「相馬地方の妙見信仰ー千葉氏から相馬氏へー」開催
16年１月　発掘調査成果展「埋もれていた古のくらしーはらまちの遺跡Ⅰー」開催
２月　市制50周年記念展「写真で見る原町市の50年」
４月　福島県立博物館移動展「博物館から歴史を学ぶ」開催
７月　「野馬追」展開催
８月　夏休み特別企画「昔の道具とくらし」開催
10月　第22回企画展「原町の動物　けもの・カエル・ヘビの仲間」開催
17年１月　第23回企画展「戦国時代の相馬」開催
４月　開館10周年記念特別展「原町市の文化財」開催
６月　「野馬追」展開催
７月　夏休み特別企画「はらまちの川と自然」
９月　第24回企画展「発掘された日本列島2005」開催
18年１月　３市町合併に伴い、博物館の名称を「南相馬市博物館」に変更
第25回企画展「自然の恵みと祭りー海と川ー」開催
４月　特別展「南相馬市の生き物ーふるさとの動物と植物ー」開催
入館者15万人達成
７月　第26回企画展「野馬追たんけん隊」開催
９月　第27回企画展「相馬の画人　堀池雲岳をめぐる世界」開催
19年１月　特別展「描かれた相馬野馬追」開催
４月　特別展「みんな集まれ！ お宝だどぉ～ ー最近の博物館収蔵資料からー」開催
７月　野馬追資料特別陳列
８月　特別展「はくぶつかんで見たよ！ ー教科書につなぐ博物館資料ー」開催
「報徳記原稿」特別公開
９月　第28回企画展「将門伝説ー相馬と周辺地域ー」開催
11月　杉並区立郷土博物館共催展「相馬野馬追ー受け継がれる武家の伝統ー」開催
（於：杉並区立郷土博物館分館）
20年１月　第29回企画展「先人の足跡ー竹島國基が歩いた遺跡ー」開催
４月　特別展「南相馬市の武家文化ー指定文化財からー」開催
５月　杉並区立郷土博物館共催展「杉並文学館ー井伏鱒二と阿佐ヶ谷文士ー」開催
７月　野馬追資料特別陳列
８月　特別展「朝日座の軌跡　地方の映画館が遺したもの」開催
10月　第30回企画展「田んぼのいきもの・たからものー人とともに歩んできた自然ー」開催
21年１月　第31回企画展「相馬の武士　町に住む武士・村に住む武士」開催
４月　特別展「アンモナイト･ワールドー相馬地方のアンモナイトとその仲間たちー」開催

平成21年７月　野馬追資料特別陳列
８月　「福島県歴史資料館収蔵資料からみた　南相馬のちょっと昔」展開催
10月　第32回企画展「相馬の馬」開催
入館者20万人達成
22年１月　第33回企画展「相馬駒焼」開催
４月　特別展「真野川のしぜんーなにがいるの？ しょくぶつ・どうぶつー」開催
６月　野馬追資料特別陳列
８月　第34回企画展「台所からキッチンへー道具に見る便利さのゆくえー」開催
10月　特別展「鹿島区の寺院展ー指定文化財を中心にー」開催
23年１月　企画展「古代陸奥の国　行方の郡家ー国史跡　泉官衛遺跡ー」開催
３月11日　東日本大震災発生
３月12日　休館。東京電力㈱福島第一原子力発電所事故発生
８月５～７日　除染実施
８月９日　一部業務再開
24年１月　特別展「ふるさと再発見　私たちのたからもの」開催
４月　特別展「阿武隈高地の生き物たちー未来に向かって、生きるー」開催
６月　特別展「相馬のたから　相馬野馬追」開催
９月　福島県立美術館移動美術展「ふるさとの記憶　安らぎの美術」開催
10月　福島県立博物館移動展「ジュラシック相馬　化石が語る恐竜時代の相馬地域」開催
25年１月　特別展「ふるさと小高」開催
４月　特別展「福島に生きるー福島県の野生生物とナチュラリストたちー」開催
７月　特別展「野馬追の今と昔」開催
９月　特別展「鹿島のたからもの　南相馬市のなかで」開催
12月　映像「相馬野馬追ー真夏を疾走する伝統行事ー」第11回全国地域映像コンクールグランプリ受賞
26年１月　特別展「原町無線塔ー世界をつないだ白亜の巨塔」開催
４月　特別展「被災地の原野に生きるー南相馬市の生き物と人・暮らしー」開催
６月　復興浜団共催「こころの金魚　深堀隆介展 in 福島」開催
特別展「野馬追のビジュアルいまむかし」開催
８月　国立科学博物館共催「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム　南相馬にアロサウルスがきたぞ！」開催
27年１月　特別展「博物館収蔵資料」開催
４月　特別展「ふくしまに生きる爬虫・両性類ー身近な生き物から未来の南相馬・福島を考えるー」開催
６月　特別展「相馬の物具文化」開催
８月　武者絵展実行委員会共催「大武者絵展」開催
９月　特別展「戦後70年記念　原町飛行場と戦争」開催
10月　入館者25万人達成
特別展「ＳＡＣＲＩＦＩＣＥー眠る地層にささげる花」開催
28年１月　福島県立博物館移動展「被災地からの考古学１ー福島県浜通り地方の原始・古代ーin 南相馬」開催

平成28年４月　特別展「文化財に見る市制10年の歩み　震災からの心の復興」開催
７月　特別展「野馬追屏風の世界」開催
９月　特別展「報徳仕法と浄土真宗門徒移民　奥州中村藩の復興への取組み」開催
29年１月　特別展「櫻井先生のあつめた浜通りの花々」開催
４月　特別展「博物館収蔵資料展2017」開催
７月　特別展「武士の備え」開催
９月　特別展「被災地の海を生きるー わたしたちの海　未来につなげる蒼い海ー」開催
11月　特別展「東北押し葉標本」開催
12月　映像「日吉神社の浜下り」第15回全国地域映像コンクール梶原拓記念奨励賞受賞
30年１月　特別展「日本の凧ー大橋コレクションー」開催
４月　特別展「南相馬の樹（き）」開催
６月　特別展「伊達成実　南相馬に来たるー北の大地に共存する相馬と伊達ー」開催
９月　特別展「描かれた相馬野馬追2018」開催
31年１月　特別展「相双の化石大集合！」開催
４月　企画展「双葉地方の昆虫」開催
令和元年５月１日　「平成」から「令和」に改元
６月　企画展「武士の装いーとりどりのかたち」開催
９月　企画展「奥相三十三所観音札所巡り」開催
11月　国立科学博物館巡回展「日本の生物多様性とその保全」開催
令和２年４～６月　新型コロナウイルス感染症拡大の影響および空調設備工事のため、臨時休館
７月　「相馬野馬追収蔵資料」展開催
10月　企画展「冥界へようこそー仏画・幽霊画などからみた死生観ー」開催
令和３年３月　企画展「南相馬の震災10年」開催
市内における新型コロナウイルス感染症拡大、市内施設の感染症対策確認のため２日間臨時休館
７月　市内における、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生による、福島県の「南相馬市における新型コロナ感染症集中対策」のため24日間臨時休館
企画展「受け継がれる伝統のチカラ 相馬野馬追」開催
11月　企画展「中村藩と近代のはじまり」開催
令和４年１～２月　新型コロナウイルス感染症急拡大のため臨時休館。当初は１月31日までであったが、その後２月６日まで休館延長、さらに福島県の「まん延防止等重点措置」の重点措置地域に指定されたため２月20日まで休館再延長
２月　企画展「やってきました！猫展　浮世絵で見る人と猫の文化史」開催
３月　文化庁「食文化ミュージアム」事業において当館が認定される。
３月16日に発生した福島県沖地震（最大震度６強）を受け、利用上の安全確認のため1日間臨時休館
４月　企画展「震災復興と発掘調査」開催
７月　「相馬野馬追収蔵資料展」開催
10月　企画展「相双地方の被爆体験を伝え継ぐー証言 ヒロシマ・ナガサキのことー」開催
令和５年１月　企画展「倉科光子植物画展 ツナミプランツー津波浸水域の植物たちー」開催

Ⅱ　施設・設備の概要、機能

１．建物の概要

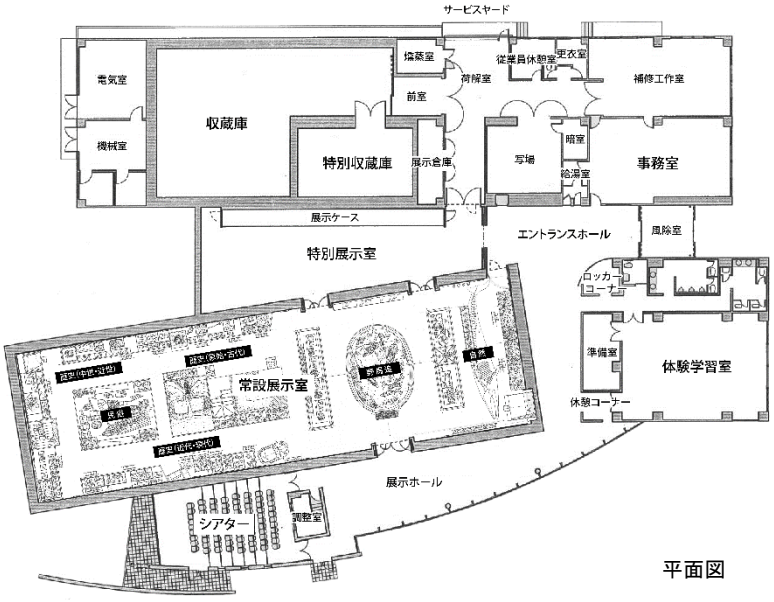
建築面積／2,288.6㎡
構　　造／鉄筋コンクリート平屋建て（一部地下一階）
敷地面積／4,729.08㎡（県営広域公園内）

２．施設の概要

管理部門／事務室　体験学習室　補修工作室　写場　燻蒸室　シアター
　　エントランスホール
展示部門／常設展示室　特別展示室　展示ホール
収蔵部門／収蔵庫　特別収蔵庫
機械設備／高圧受電設備　空気調和設備　消防設備　防犯設備
部門別床面積／管理・機械部門　1,051.6㎡
　　展　示　部　門　754.0㎡
　　収　蔵　部　門　483.0㎡
駐 車 場／博物館駐車場　15台
　　公園南側駐車場（公園施設）74台
　　公園北側駐車場（公園施設）81台

３．施設の機能

常設展示室／野馬追部門　自然部門　考古部門　歴史部門　民俗部門
特別展示室／年４回程度開催　定期企画展
シ ア タ ー／映像による資料案内および学習（150インチ　スクリーン対応映像設備）
　　収容人員83人（うち車椅子席３席）
体験学習室／収容人員43人　講演会・講座・講習会
収　蔵　庫／積層棚　225㎡
特別収蔵庫／積層棚・箪笥　70㎡
補修工作室／資料復元補修および研究施設　84㎡
燻　蒸　室／展示・収蔵資料の燻蒸施設　12㎡
写　　場／収蔵資料の写真撮影施設　42㎡



平面図

Ⅲ　常設展示事業

１．展示の概要

常設展示室と特別展示室を中心にシアター、展示ホール、エントランスホールによって構成している。国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」をはじめ、この地方に関する自然や歴史、民俗についての資料を公開することによって、野馬追の里として特色のある歴史と文化を紹介している。

常設展示室は野馬追、自然、歴史（原始・古代、中世・近世、近代・現代）、民俗の各部門で構成し、それぞれの展示テーマをもとに実物資料やグラフィック資料、映像資料、複製資料などを複合的に組み合わせた展示をしている。

順路は野馬追部門、自然部門、歴史部門、民俗部門へと続く。歴史部門の中央には羽山横穴の復元模型、実物の古代製鉄炉、近代・現代の文化人のコーナーがある。民俗部門は「馬と生きる」「新田川の恵み」の２つのテーマを設け展示している。

そのほか、各分野のミニテーマを展示するコーナーもある。

２．展示資料の概要

◆野馬追

神旗争奪戦ジオラマ　相馬野馬追諸道具（甲冑　相馬太田神社神輿　野馬追列帳　神旗　野馬懸諸道具など）　相馬野馬追図屏風（複製）　野馬追絵巻（映像）

◆自　然

化石（古生代～新生代）　小型肉食恐竜足跡化石　ヒゲクジラ類脊椎骨化石　岩石標本　南相馬市原町区の地形模型　動植物のジオラマ　動植物写真パネル　人の進化（猿人、原人、旧人、新人の頭蓋骨標本）　馬の進化（図）　南相馬市の自然（映像）　剥製（ウサギ・キジなど）　昆虫標本（ハッチョウトンボなど）

◆歴史（原始・古代）

旧石器　浦尻貝塚出土品　縄文人の作業のようす（模型）　縄文時代の狩猟道具　縄文人の装飾品　鷲内遺跡出土の編組製品（クルミカゴ）　弥生時代の農耕具　桜井遺跡出土品　古墳および横穴群地図　桜井古墳群出土品（底部穿孔二重口縁壺・銅鏡・鉄製直刀）　竪穴住居（高見町Ａ遺跡１号住居跡の模型）　高見町遺跡出土の塩釜式土器　羽山横穴の実物大模型および出土品　泉官衙遺跡出土品　大六天遺跡出土品　蛭沢遺跡群出土品　広畑遺跡出土墨書土器　金沢地区製鉄遺跡群長瀞遺跡竪形炉（実物）　陸奥国官衙関連遺跡（図）　行方八社（図）

◆歴史（中世・近世）

相馬氏の歴代系図　牛越城（模型）　中世行方地方の村（図）　県指定重要文化財木造十一面観音立像（模型）　相馬岡田文書（復製）　板碑（模型）　中村藩領地目録　三百一本の槍　給人郷士関係文書　中村藩の武士制度（図）　原ノ町宿（模型）　商家の店頭風景（実物大模型）　天明の飢饉関係文書　報徳仕法関係文書　二宮尊徳坐像　富田高慶坐像（複製）　武山家住宅（模型）

◆歴史（近代・現代）

原ノ町誕生までの町村の変遷図　戊辰戦争関係文書　官員文書（役職名簿）　明治初年行方郡行政区分（図）　日清・日露戦争関係図　関東大震災関係文書　手回し映写機　常磐線開通間もない頃の原ノ町駅構内（写真）　原町紡織㈱工場（写真）　原町紡織㈱関係文書　無線塔主塔（模型）　昭和初期の原ノ町駅のようす（模型および映像）　転車台（模型）　Ｃ62機関車（模型）　原町飛行場関係写真　特別攻撃隊の写真および遺品　薬莢・銃弾　配給品購入台帳　戦時中の雑誌　農地解放関係図・写真　常磐線の電化完成（写真）　開業当時の丸三製紙㈱原町工場（写真）　無線塔解体（写真）　佐藤精明関係遺品　羽根田利夫関係文書および写真　羽根田利夫新彗星発見時の手作り望遠鏡　昭和41年製軽自動車（スバル360）　無線塔頭部（屋外展示）　Ｃ50機関車（屋外展示）

◆民　俗

農耕馬の模型および馬耕用具　かなぐつ屋の用具　フイゴ　蹄鉄　馬頭観世音石塔（模型）　絵馬　馬頭尊護摩供の護符　猿駒曳の護符　水産旧慣調（写真）　川舟　川漁関係写真および用具　鮭運搬用具　ヤナ場（模型）　サケ雌雄（剥製）　明治・大正・昭和・平成時代の鮭漁（写真）　鮭料理（模型）

◆**野馬追**

相馬野馬追の勇壮な神旗争奪戦をジオラマで再現している。このほかに甲冑や野馬追の祭具、野馬追図屏風などを展示。野馬追の歴史と変遷を解説。

◆**自　然**

自然との共存をテーマに、秋の山里の動植物を再現したジオラマ、原町区の地形模型、ヒゲクジラ類化石、ジュラ紀動植物化石の展示ほか、人や馬の進化を解説。

◆**歴史（原始・古代）**

旧石器時代から平安時代まで、市内出土資料を中心に展示。史跡浦尻貝塚・桜井古墳・羽山横穴・泉官衙遺跡をはじめ、全国的にもまれな鷲内遺跡出土の編組製品（クルミカゴ）など、近年の発掘調査の成果から、当時の人びとの生活や文化を解説。

◆**歴史（中世・近世）**

鎌倉時代から江戸時代までの、相馬氏の統治、中世の信仰、原ノ町宿の復元模型、天明の飢饉と村おこし、奥州中村藩の政治、報徳仕法などの資料を展示し、解説。

◆**歴史（近代・現代）**

戊辰戦争から現代までの、明治・大正・昭和の世相を示す資料とともに、無線塔や転車台、昔の原ノ町駅の風景などの復元模型を展示。また、原町の文化人の紹介も行う。

◆**民　俗**

人と馬、人と川との関わりを紹介する。馬を使った農耕具や絵馬などの馬に関する資料、鮭漁のヤナ場のようすや漁に使用された道具を通し、人びとの暮らしぶりを紹介。

Ⅳ　令和４年度事業実施概要

１．企画展示事業

（１）「震災復興と発掘調査」

［担当学芸員］　荒　淑人

［期　　間］　令和４年４月29日～６月12日　39日間

［観覧者数］　888人（一般781人、高校生７人、小・中学生100人）

［内　　容］　東日本大震災発生以降、「復興集中期間」「復興創生期間」を経て、すべての発掘調査報告書が刊行され、復興事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査については一応の終了をむかえた。

復興事業に対する発掘調査では、東町遺跡で縄文時代の集落や上渋佐原田遺跡の奈良・平安時代の集落等の発掘調査が行われるなど、南相馬市の歴史の一端が数多く発見された。

本企画展では、これらの復興期間の10年に実施された発掘調査を振り返り、復興事業と発掘調査のあゆみを紹介・展示することを目的とした。

［展示構成］

１．東日本大震災の概要／東日本大震災の被害
２．災害公営住宅整備事業／中才遺跡
３．防災集団移転促進事業／上渋佐原田遺跡、東町遺跡
４．下太田工業団地整備事業／西迫横穴墓群
５．大規模園芸施設整備事業／南海老南町遺跡
６．罹災者住宅移転発掘調査事業／榎内遺跡（横手古墳群Ａ地区14号墳）、桜井Ｄ遺跡
７．その他の発掘調査／鷺内遺跡、観音堂石仏、八幡林遺跡、椴木沢Ｃ遺跡
８．発掘調査技術支援
９．復興の状況

企画展「震災復興と発掘調査」の一部

［関連事業］

・講演「震災復興と発掘調査」
　日時：令和４年５月８日　10時30分～12時
　講師：荒　淑人
　参加者数：22人

［展示資料］

No.	遺跡名	資料名	数量	時　代
1	西迫横穴墓群	直刀	1	古墳時代
2	西迫横穴墓群	ガラス製小玉、石製丸玉のアクセサリー	6	古墳時代
3	西迫横穴墓群	勾玉、切小玉、管玉	21	古墳時代
4	西迫横穴墓群	鉄鏃、刀子	5	古墳時代
5	西迫横穴墓群	土師器杯・甕、須恵器杯・瓶・甕・壷	42	古墳～平安時代
6	中才遺跡	編組製品	1	縄文時代
7	中才遺跡	製塩土器片	多数	縄文時代
8	中才遺跡	石鏃	11	縄文時代
9	上渋佐原田遺跡	土師器杯・甕、須恵器瓶、円面硯	37	平安時代
10	東町遺跡	縄文土器	23	縄文時代

No.	遺跡名	資料名	数量	時　代
11	東町遺跡	石鏃、削器等石器	22	縄文時代
12	南海老南町遺跡	土師器杯・甕、カワラケ	29	古墳時代、中世
13	桜井Ｄ遺跡	土師器杯、Ｌ字形鉄製品	6	奈良～平安時代
14	榎内遺跡	土師器甕、須恵器提瓶	3	古墳時代
15	八幡林遺跡	弥生土器絵画土器片	1	弥生時代
16	八幡林遺跡	土師器杯・坩・甕	14	古墳時代
17	原山遺跡	土師器杯・高杯・甕	10	古墳時代
18	鷺内遺跡	編組製品	6	縄文時代
19	復元品	編みかご	1	現代

（２）「相馬野馬追収蔵資料展」

［担当学芸員］　二上文彦

［期　　間］　令和４年7月９日～９月25日　68日間

［観覧者数］　2,038人（一般1,655人、高校生39人、小・中学生344人）

［内　　容］　南相馬市博物館は、自然・考古・歴史・民俗といった研究分野に加え、「野馬追」という独自の分野を設け、当地方を代表する国重要無形民俗文化財「相馬野馬追」の資料収集・保管・調査研究・展示する特色ある博物館として、平成７年（1995）に開館した。以降、絵画類・文書類・写真動画類や甲冑武具類等、野馬追に関する多岐にわたる資料を収集対象とし、寄贈・寄託・購入等によって、現在1,000を超える野馬追関連資料が収蔵されている。

今回の展示では、これら野馬追分野の収蔵資料の中から、野馬追の見どころのひとつとしても人気の高い甲冑武具類の紹介をはじめ、昭和～平成期に製作された野馬追ポスターから野馬追の変遷をふりかえり、野馬追への理解を深めるものとした。あわせて、令和４年度春に発見されたばかりの相馬家所用と考えられる甲冑を、新資料として紹介した。

［展示構成］

１．野馬追の華　甲冑武具類

野馬追の騎馬武者たちが身に着ける甲冑武具類は、形状・色彩などがさまざまで、いわば野馬追の“華”のひとつでもある。その見かたや楽しみ方を紹介し、野馬追観覧への一助とした。

２．野馬追ポスターから歴史をふり返る

昭和～平成～令和期に製作された野馬追ポスター（約20点）から、日程の変遷や時代性等を振り返る。また、ポスターと合わせて、昭和・平成に制作された野馬追の映像作品を常時上映した。

企画展「相馬野馬追収蔵資料展」の一部（初公開の伝・相馬家所用「栗色塗縦矧二枚胴具足」個人蔵）

［関連事業］

・講座「野馬追を知る－殿様ご家族のしるし－」

日時：令和４年７月17日　13時30分～15時30分

講師：二上裕嗣氏（相馬野馬追保存専門委員長）

参加者数：16人

［展示資料］

No.	名　称	備考（作者・制作年など）	所蔵等
1	栗色塗縦矧二枚胴具足	伝・相馬家所用　江戸時代中期～後期	個人
2	黒漆塗縦矧五枚胴具足	伝・相馬家所用　江戸時代中期～後期	個人
3	朱漆塗萌黄糸威横矧五枚胴具足（パネル）	相馬市指定有形文化財（工芸品） 兜銘「明珍信家」「大永六年丙戌十月吉日」	相馬和胤氏
4	黒漆塗本小札緋糸威二枚胴具足（パネル）	相馬市指定有形文化財（工芸品） 兜銘「明珍信家（花押）」「天文十年辛丑／八幡大菩薩／伊勢天照大神宮／春日大明神／三月吉日」　面頬銘「宗久作」	相馬和胤氏
5	黒漆塗白糸素懸威異形胴具足（パネル）	江戸時代後期	佐川広直氏
6	伝相馬義胤（相馬氏16代）の甲冑・肖像画（パネル）	昭和３年（1928）撮影　ガラス原版写真	馬場　行氏
7	御兵具御改帳	文化10年（1813）	当館蔵（門馬一彦氏寄贈）
8	東北遺物展覧会記念帖	昭和８年（1933）出版　菊田定郷編	個人
9	色々威腹巻	江戸時代後期　※エントランスホール展示	個人
10	錆色塗肋骨胴具足	江戸時代　兜銘「早乙女家久」	個人
11	金箔押皺韋包丸龍文六枚胴	江戸時代	個人
12	黒漆塗本小札紺糸威胴丸	江戸時代中期	個人
13	鉄錆地横矧五枚胴具足	江戸時代 兜銘「宗元」　胴銘「市口出雲宗元（花押）」	個人
14	黒漆塗最上胴	江戸時代中期　兜銘「明珍長門守紀宗政」	当館蔵（小林兀氏寄贈）
15	黒漆塗鳩胸五枚胴具足	伝・大岡家所用　江戸時代　兜裏・胴裏銘「忍住紀宗清作（花押）」　南相馬市指定有形文化財	当館蔵
16	黒漆塗横矧五枚胴具足	伝・二宮家所用　江戸時代後期	佐藤重郎氏
17	黒漆塗仏胴（御貸具足）	江戸時代中期～後期　加賀藩製　10領	相馬小高神社
18	刀	江戸時代後期　銘（オモテ）「慶心斎直正作之」（ウラ）「嘉永七年二月吉日」	個人
19	梨地獅子牡丹文高蒔絵水干鞍・同鐙	江戸時代　鞍銘（墨書）「元亀三年三月吉日」 蒔絵師銘「梶川作（印）」	当館
20	黒漆塗銀唐花蒔絵鞍	江戸時代末期　文久３年（1863）作　右居木「森田安重（花押）」　左居木「癸亥文久三祥春」	当館
21	黒漆塗軍陣鞍	室町時代前期	個人
22	黒漆塗馬面	江戸時代	当館（個人寄贈）
23	鉄線文鐙	江戸時代中期　象嵌銘「加州住氏屋作」	個人
24	相馬野馬追ポスター（昭和期）	昭和32年（1957）、35年（1960）、40年（1965）、49年（1974）、53年（1978）、57年（1982）、58年（1983）、61年（1986）、63年（1988）	当館
25	相馬野馬追ポスター（平成期）	平成元年（1989）、３年（1991）、６年（1994）、９年（1997）、10年（1998）、11年（1999）、14年（2002）、16年（2004）、17年（2005）、18年（2006）、23年（2011）、24年（2012）	当館
26	相馬野馬追ポスター（令和期）	令和２年（2020）、４年（2022）	当館

No.	名　称	備考（作者・制作年など）	所蔵等
27	映画「相馬野馬追」	昭和41年（1966） 企画：福島県原町市　制作：アジア映画社	当館
28	映像「相馬野馬追 戦国を駈けぬける男たち」	平成３年（1991） 企画・制作：原町市　協力：第一法規出版㈱	当館
29	「赤いきつね」「緑のたぬき」相馬野馬追パッケージ	平成29年（2017） 東洋水産㈱	当館
30	サッポロ黒ラベル「'07東北夏祭りデザイン缶」	平成19年（2007） サッポロビール㈱	当館
31	コカ･コーラ「がんばろう東北ボトル」宮城･山形･福島限定デザイン	令和３年（2021） コカ・コーラボトラーズジャパン㈱	当館
32	地方自治法施行60周年記念貨幣 福島県・相馬野馬追（500円）	平成28年（2016）発行	当館
33	ＳAMURAＩ　MASＫ（サムライマスク）	令和３年（2021） アーティジャングル製作	当館

（３）「相双地方の被爆体験を伝え継ぐ」

［担当学芸員］　堀　耕平

［期　　間］　令和４年10月22日～12月11日　44日間

［観覧者数］　737人（一般680人、高校生４人、小・中学生53人）

［内　　容］　戦後70数年が経過し、戦争の生き証人である戦争体験世代がますます少なくなってきている。また、戦争の悲惨さや悲しみなど記憶の風化が指摘されて久しい。

昭和53年（1983）、１冊の本が刊行された。戦後38年を経てまとめられた相双地域在住者による被爆体験談集『私も証言するーヒロシマ・ナガサキのことー』である。ここでは20人の被爆体験が語られている。広島・長崎から遠く離れた相双地方に、こんなにも多くの被爆者がいたことは驚きに値する。

しかしながら、時間の経過とともにこの事実は人びとの日常から遠退き、語られることがなくなった。今、本の刊行から39年を経て、被爆体験やその後の生活体験の実際がどのようなものであったかを伝え継ぐものとした。

［展示構成］

１．ヒロシマ・ナガサキの原爆被害
２．相双地方の被爆体験談
３．核兵器（廃絶）の現状
４．関連展示
・原発事故に対するウクライナからの応援メッセージ
・ウクライナの子どもたちの手紙と絵
５．原爆や戦争、平和に関する本

企画展「相双地方の被爆体験を伝え継ぐ」の一部（原爆の図　丸木美術館所蔵）

［関連事業］

・平和学習講座「ヒロシマから未来へ　核兵器のない平和な世界を目指して」
日時：令和４年10月30日　13：30～14：30
講師：西村宏子氏（広島平和記念資料館派遣講師）
参加者数：36人

・ウクライナの子どもたちからの手紙と絵の展示
　期間：令和４年10月22日～12月11日
　場所：展示ホール
　資料：東日本大震災時にウクライナの子どもたちから寄せられた手紙と絵
・ＩＣＡＮのノーベル平和賞受賞と活動紹介
　期間：令和４年10月29日～10月30日
　場所：展示ホール
　資料：平和賞賞状・メダルのレプリカ、活動紹介写真パネル

［展示資料］

No.	資料名等	点数	所有者等
1	ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター	26枚	広島平和記念資料館
2	体験談抜粋文・絵パネル	22点	『私も証言する』から抜粋
3	被爆瓦	11点	福島県立相馬高等学校（郷土部）
4	「原爆の図 第２部 火」原寸大複製	８幅１対	原爆の図　丸木美術館
5	10フィート映画「にんげんをかえせ」制作協賛ポスター	１枚	個人
6	峠三吉作『原爆詩集』峠没後35年記念復刻版（1988）	１冊	個人
7	『原爆詩集』序パネル	１枚	拡大複写
8	反戦・反核ドキュメンタリー（映画上映会）特集チラシ	１枚	個人
9	『私も証言する －ヒロシマ・ナガサキのことー』	１冊	館蔵
10	インタビュー映像「被爆者に罪はないのに」	１番組	福島県立相馬高等学校（放送部）
11	インタビュー映像「あの日からＳさんは、桑原さんは…」	１番組	福島県立相馬高等学校（放送部）
12	核兵器廃絶を目指してポスター	３枚	平和首長会議
13	南相馬市の核兵器廃絶平和都市宣言パネル	１点	館製作

（４）「倉科光子植物画展 ツナミプランツ ―津波浸水域の植物たち―」

［担当学芸員］　堀　耕平・仲川邦広
［期　　間］　令和５年１月21日～３月12日　44日間
［観覧者数］　1,892人（一般1,656人、高校生０人、小・中学生236人）
［内　　容］　平成23年３月11日に発生した東日本大震災の津波は、私たち人間の生活だけでなく、自然界にとっても大きな破壊をもたらしたが、津波が去った後にはあちこちで植物たちの奇跡のような芽吹きが始まっていた。

植物画家である倉科光子氏は、各地の植物研究者と協力し、津波後の浸水域に芽吹いた植物たちと生育環境を丹念に描き、津波の植物たち＝tsunami plants（ツナミプランツ）と名付けた。

本企画は、当館学芸員が倉科光子氏のフィールドワークに協力したことをきっかけに生まれた展覧会である。被災地では震災復興が進み、浸水域の植物をはじめ、震災の記憶をものがたる景色は消えつつある。小さいけれどたくましい草花の営みと津波の記憶を、画家の目を通して描かれた作品を媒体にして、地域のアイデンティティーとして受け入れることの可能性を模索した。

作品については新聞・テレビ・ＳＮＳなどメディアでも話題となり、会期がすすむほど来場者数が増え、受託販売を行った作品集も購入用意した在庫が足りなくなるなど、自然関連の展示会としては近年に類を見ない反響であった。美術分野を持たない地域博物館である当館とアーティストとの協力のあり方を考えさせる機会となった。

［展示構成］

１．倉科氏の描いた植物画

２．植物画制作過程資料・映像

３．植物標本・レプリカ

［関連事業］

・ギャラリートーク

日時：令和５年２月11日（土）午前・午後各１回

講師：倉科光子氏（植物画家）、黒沢高秀氏（福島大学教授）

参加人数：51人

企画展「倉科光子植物画展 ツナミプランツ ―津波浸水域の植物たち―」の一部（ミズアオイの作品(左)と押し葉標本・レプリカ(中央)、制作過程資料として使われた現地の砂の顕微鏡による展示(右)）

［展示資料］

No.	作品名・資料名	植物名	場　　所	制作年・採集年月日
1	37° 32’55″N 141° 01’32″E	ツツイトモ	福島県南相馬市小高区角部内　前河浦	2019～2020年
2	Certain place in Fukushima	スナビキソウ	福島県相双地方	2018～2020年
3	39° 42’03″N 141° 58’15″E	メマツヨイグサ	岩手県岩泉町	2015年
4	40° 12’32″N 141° 47’54″E	シロヨモギ	岩手県久慈市	2013～2014年
5	Certain place in Miyagi	ウミミドリ	宮城県	2018～2021年
6	37° 46’20″N 140° 59’19″E	防潮堤のシロヨモギ	福島県相馬市	2020年～制作中
7	Certain place in Iwate	マルミノシバナ	岩手県	2018～2021年
8	Certain place in Gunma	ブナ	群馬県	2012年
9	37° 47’50″N 140° 58’59″E	ハマサジ	福島県相馬市松川浦	2021年
10	37° 47’29″N 140° 58’54″E	ウミミドリ	福島県相馬市松川浦	2021年
11	37° 33’22″N 141° 01’31″E	ミズアオイ	福島県南相馬市小高区	2016～2020年
12	39° 42’03″N 141° 58’15″E	ハマエンドウ	岩手県岩泉町	2015～2021年
13	35° 36’38.1″N 139° 27’38.0″E	土手	神奈川県麻生区黒川	2010～2015年
14	「tsunami plants」のための習作	―	―	2015年～制作中
15	押し葉標本（南相馬市博物館蔵）	ツツイトモ	福島県相馬市磯部	2014年７月25日採集
16	レプリカ（南相馬市博物館蔵）	ツツイトモ	―	―
17	押し葉標本（南相馬市博物館蔵）	ミズアオイ	福島県南相馬市原町区下渋佐	2014年８月28日採集
18	レプリカ（南相馬市博物館蔵）	ミズアオイ	―	―

２．その他の展示事業

（１）ミニテーマコーナー

常設展示室の一部に小展示スペースを設け、学芸調査による研究成果の一部を展示した。

① 猫稲荷神社

［担当学芸員］　堀　耕平
［期　　間］　令和４年２月22日～４月28日
［内　　容］　企画展「やってきました！ 猫展」の併設展示。養蚕で害をきたすネズミを退治する神様として信仰されてきた、川俣町西福沢地区の猫稲荷神社と奉納された猫絵馬を紹介。
［展示資料］　猫絵馬（猫稲荷神社蔵）７点、写真パネル（猫稲荷神社社殿、猫碑）

② えっ？ こういうものも資料になるんですか？

［担当学芸員］　森　晃洋
［期　　間］　令和４年４月29日～９月30日
［内　　容］　日々さまざまな分野の資料を収集し整理するなかで、「こんなものも？」と意外に思ってしまう資料がある。それらの資料を通して、地域の自然や歴史、文化を伝えるものがあることを紹介。
［展示資料］　動物のフンや巣、小高座興行ポスター・チラシ、奇術絵葉書、ファミリーデパート・ノムラのチラシ、モルツ野馬追ラベル缶、日清焼きそばＵＦＯ「東北夏祭りめぐり（相馬野馬追）」など

③ 人生儀礼と成長儀礼

［担当学芸員］　二本松文雄
［期　　間］　令和４年10月１日～12月28日
［内　　容］　人は誕生から死まで、成長段階に応じてさまざまな人生儀礼を経て生きていく。死後はいくつもの年忌を経て祖霊化し、再び生まれ変わるという死生観を紹介した。
　取子という虚弱な子供の無事成長を願う習俗は現在では見られないので、「太田神社取子殿案内」は貴重な資料である。厄年の紹介では、この地方の特色である、厄年を盛大に祝い厄払いする習俗、大きなお札を贈る習俗、模型船に厄を付けて海や川に流す習俗を紹介した。
［展示資料］　人の一生と人生儀礼円グラフ風パネル、「太田神社取子殿案内」、七五三衣装、七五三記念写真、厄流しの会場写真、厄流しの船

④ 博物館でみるウサギ

［担当学芸員］　二上文彦・二本松文雄・仲川邦広
［期　　間］　令和５年１月４～３月30日
［内　　容］　令和５年の干支「卯」の動物・ウサギにちなみ、ウサギに関する資料を紹介した。

ミニテーマコーナー 「博物館でみるウサギ」の展示

［展示資料］　ノウサギはく製、ノウサギのフン、カワウ・チュウサギはく製、北萱浜の神楽幕（兎と波　萱浜神楽保存会蔵）、玉うさぎ（三春張子）

（２）エントランスホール展示

季節の話題・ニュース性があるテーマ、また常設展・企画展の導入としてエントランスホールを活用し、展示や情報提供を行った。

テーマ［担当学芸員］	展示期間	資料名
メダカ（生態展示）［仲川邦広］	常　設	市内流域に野生で生息するミナミメダカと外来種の淡水エビ
みなみそうま地域学術団体紹介コーナー　自然と歴史ぶんかの窓［仲川邦広］	常　設	日本野鳥の会南相馬ほか、市内で活動する学術団体の紹介、活動情報の掲載等
文化庁選定「食文化ミュージアム」に南相馬市博物館が認定されました！［川崎　悠］	令和４年３月26日～ ７月13日	新聞記事紹介パネル、ベンケイ（レプリカ）、ふくしまイノベんとう
文化財保護制度100年記念事業［堀　耕平］	３月29日～ ６月12日	「記念物100年」パネル
大発見！南相馬市産の新種・植物化石「キムリエラ・デンシフォリア」［二上文彦］	５月８日～ ６月12日	ジュラ紀植物化石「キムリエラ・デンシフォリア」標本６点
野馬追の武具［二上文彦］	６月14日～ ７月８日	黒漆塗三十二間筋兜
企画展「相馬野馬追収蔵資料展」導入　相馬野馬追ポスター平成・令和期［二上文彦］	７月９日～ ９月25日	相馬野馬追ポスター14点
野馬追の武具［二上文彦］	７月９日～ 10月18日	色々威腹巻
文化庁選定「食文化ミュージアム」に南相馬市博物館が認定されました！［川崎　悠］	７月14日～	新聞記事紹介パネル
南相馬味めぐり　夏の食べ物編［川崎　悠］	７月14日～ 10月２日	郷土料理レプリカ（ホッキご飯、カツオの焼き漬け、キュウリの味噌汁、キノコとナスのじんだ和え、しそ巻とせっぷく南蛮）
南相馬味めぐり　ガニマキ編［川崎　悠］	７月14日～ 10月２日	郷土料理レプリカ（原町区深野のガニマキ、鹿島区上栃窪のガニマキ）、モグズガニ標本
いろいろなモチ［川崎　悠］	12月６日～ 令和５年３月23日	郷土料理レプリカ（鏡餅、橙、あんこ餅、納豆餅、豆腐餅、大根おろし餅、アカアカ餅、凍み餅、柿餅）
神楽（南小高の神楽）［二本松文雄］	１月４日～ １月19日	南小高の神楽（頭・幕） 大正15年（昭和元年・1926）製
小正月行事（イナボ）［二本松文雄］	１月８日～ １月19日	イナボ（ミズノキに稲穂や繭玉を模した煎餅を刺した、小正月の飾り物）
日本の凧（九州・沖縄編）［二本松文雄］	１月４日～ １月31日	浮世絵「江戸砂子年中行事　元旦の図」、凧（孫次凧〔セミ凧〕、表奴、小川ハタ、婆羅門凧２点、マンボ〔金時〕、マッターク、ハッカク２点、ハビルフータン）、市内の凧揚げ風景写真
昔の道具［二本松文雄］	２月９日～ ３月12日	衣食住に関する昔の道具
南相馬味めぐり　春編［川崎　悠］	３月24日～	郷土料理レプリカ（ワラビのおひたし、コゴミの胡麻和え、タケノコご飯、ゼンマイの油炒め、山菜の天ぷら、フキの油炒め）

（３）野外展示

館外に本市に関連する資料の展示を行った。

C50型蒸気機関車

① 蒸気機関車

［期　　間］
平成11年８月26日から現在地に常設展示
［展示資料］　標準旅客用機関車
Ｃ50型103号機、テンダー
［資料内容］　昭和５年３月に製造。昭和20年11月から常磐線平機関区に配備され、昭和45年４月に廃車となったもの。

② 原町無線塔頭部

［期　　間］
平成９年８月20日から現在地に常設展示
［展示資料］
磐城無線電信局原町送信所主塔頭部
［資料内容］　大正10年７月に開局した対米無線局・磐城無線電信局原町送信所の主塔頭部。副柱へワイヤーを張って巨大アンテナを形成するための滑車が付属する。
高さ201メートルの鉄筋コンクリート塔は、開局当時“東洋一”と称され、大正12年の関東大震災の惨状をサンフランシスコに打電し各国からの援助を導いた。昭和57年に解体され、頭部のみ現存する。

磐城無線電信局原町送信所主塔頭部

パンタネリウム

③ パンタネリウム

［期　　間］
平成30年30月29日～
［展示資料］　パンタネリウム
［資料内容］　平成29年度福島県事業「アートによる新生ふくしま交流事業」の一環として、アーティスト君平氏が制作した鉄製オブジェ。鹿島区の小山田層（中生代白亜紀初期）の地層から産出する微化石「パンタネリウム」を表現した作品。

（４）かしま交流センター展示

鹿島区に関連する資料の展示を行った。

［担当学芸員］　堀　耕平

［期　　間］　平成31年４月１日～

［展示資料］　縄文土器、解説パネル

［資料内容］　一杯清水遺跡出土の注口土器（縄文晩期）

かしま交流センター展示「一杯清水遺跡出土の注口土器」

（５）おだか交流センター展示

小高区に関連する資料の展示を行った。

［担当学芸員］　二本松文雄

［期　　間］　令和２年12月16日～

［展示資料］　大正８年福島県小高町案内図、綿屋呉服店写真、綿屋呉服店看板、綿屋呉服店包装紙、綿屋創業88周年記念手拭い

［資料内容］　現在のおだか交流センターにあった、明治４年創業の呉服店「綿屋」に関連する資料

おだか交流センター展示「綿屋創業88周年記念手拭い」

３．資料収集管理事業

（１）収蔵資料数（令和５年３月31日現在）

＊（ ）内は寄託件数

区　分		実　物	標本	模型等	合　計	令和４年度増減分　内訳			
						寄贈	購入	寄託	返却
人文科学資料	美　術	770（　3）			770（　3）	22			
	考　古	10,184（2,477）			10,184（2,477）				
	民　俗	7,492（　249）		11	7,503（　249）	127			－３
	歴　史	16,791（5,242）		53（7）	16,844（5,249）	196		23	－４
	図　書	11,599			11,599	－30	31		
	写　真	1,330			1,330				
	その他	548			548				
	計	4,8714（7,971）		64（7）	48,778（7,978）	315	31	23	－７
自然科学資料	動　物	684（　40）	678	13	1,375（　40）	4			
	植　物	70	54	2	126	1			
	地　学	13（　2）			13（　2）				
	理化学								
	天　文								
	図　書	413			413	－５			
	写　真	116			116				
	その他	63		1	64				
	計	1,359（　42）	732	16	2,107（　42）	0	0	0	0
合　計		50,073（8,013）	732	80（7）	50,885（8,020）	315	31	23	－７

（２）資料の貸出し

① 博物館資料

資料名／点数	貸出先	貸出期間	展覧会・イベント名
鳥類剥製（アオゲラ）／１点	日本野鳥の会南相馬	令和４年５月８日	市民探鳥会（第１回）鳥類剥製展示協力
縄文土器／８点、 弥生土器／９点	石神第二小学校	令和４年6月14日 ～６月24日	社会科の歴史学習
鳥類剥製（トビ、ノスリ、ガビチョウ）／３点	日本野鳥の会南相馬	令和４年６月５日	市民探鳥会（第２回）鳥類剥製展示協力
勾玉／17点、切小玉／３点、管玉／１点、鉄製品／３点	石神第二小学校	令和４年７月７日 ～７月20日	社会科の歴史学習
金箔押切付小札紫糸威二枚胴具足／１点	(一社) 原町青年会議所	令和４年10月28日 ～12月２日	第10回「野馬追の里南相馬～子どもたちが描くふるさと絵画展～」全国展（ＪＲＡ競馬博物館10/29～2/19）における展示資料

② 写真資料

28件・108点

４．調査研究事業

（１）『研究紀要』の刊行

学芸員の調査研究成果を掲載する学術雑誌の制作。東日本大震災後休止していた事業を再開。電子版として発行し（令和４年３月31日付）、当館公式ウェブサイトで公開した。また、令和４年度末に印刷製本した（200部）。

『研究紀要　第13号』

■「福島県浜通り地方における古墳時代の動向（その１）」　荒　淑人
■「泉十一面観音堂に伝わる大般若経～その伝来と写経について～」　森　晃洋
■「南相馬市の災害慰霊碑・伝承碑」－後世へのメッセージー　二本松文雄

（２）調査研究テーマと内容

【共同テーマ】

東日本大震災にかかる資料・情報収集（継続）［担当学芸員：全員］

東日本大震災を歴史的事象として後世に伝えること（将来の常設展示化、企画展等）を目的とした、東日本大震災に係る資料や情報の収集。

・金房小学校資料の収集

【分野別テーマ】

① 東日本大震災（災害）と野馬追（継続）［担当学芸員：二上文彦］

東日本大震災から10年経過してもなお、行事が元通りに執行されていない旧警戒区域（双葉町・大熊町）の野馬追の動向を注視する。また、震災同様に、近年のコロナ禍の野馬追も“歴史的事象”として捉え、情報収集・記録を行った。

・コロナ禍から３年ぶりの通常開催となった行事全般の記録
・大熊町で12年ぶりに復活した騎馬武者行列（お上がり）の記録
・相馬言胤氏の初陣に関する記録

② 野馬追絵画の調査（継続）［担当学芸員：二上文彦］

平成29年度に当館で購入した『野馬追備列絵巻』を中心とする、野馬追絵画類の調査。

・所在不詳だった個人蔵の野馬追絵巻を再確認できた。今後、詳細な調査を行う。

③ 東日本大震災後の生物（小高の自然）調査（継続）［担当学芸員：仲川邦広］

東日本大震災後の津波被災地、東京電力㈱福島第一原子力発電所から半径20キロメートル圏内の動植物について、環境省、国内の研究者、大学と連携し、情報交換を行いながら生物相（変化）の継続した調査を行った。

また、「小高の自然」調査事業にて化石、地質、動植物などの調査を行い、昆虫、化石・岩石の標本の収集を継続した。令和４年度に各調査から得られた情報を集約し、報告書をデジタル発行し、令和５年度に調査成果をもとにした企画展を開催予定。

④ 津波跡地の植物相調査と標本の収集（継続）［担当学芸員：仲川邦広］

津波の跡地に生じた湿地や水路には新たな生態系が広がっており、なかには絶滅危惧種であるツツイトモ（震災前には福島県で未報告）、リュウノヒゲモ（福島県絶滅危惧ⅠA類）などが確認されている。これらの植物の存在の証拠となる植物標本の収集・作製を継続して進めている。

特に、リュウノヒゲモは現地の防潮堤工事によって生育地が消滅したため、館内水槽での栽培維持を行っている。別途、展示予定。

⑤ 文化財レスキュー活動（継続）［担当学芸員：全員］

東日本大震災や福島県沖地震の影響で被災家屋の主屋や蔵、納屋などの解体が続いている。それに伴い、多くの文献資料や民俗資料（民具）が大量に廃棄されている。これまで13件の問い合わせがよせられ、そのうち８件の被災文化財のレスキュー活動と資料整理を実施した。

⑥「浜下り」の映像記録制作（祭礼の年に随時継続）［担当学芸員：二本松文雄］

当館ではこれまで「日吉神社の浜下り」「男山八幡神社のお浜下り」「鵜足神社の浜下り」「南相馬の子供の祭り」（小沢と下江井の天神様のお浜下り）など、市内各地に伝わる浜下り行事の映像記録制作を行い、博物館内および各地区で上映会を開催してきた。

新型コロナ感染症の影響で１年延期され、令和４年３月末に鹿島区海老地区で開催された「虚空蔵尊の浜下り」の映像記録を制作した。今後、記録として保存し、博物館のビデオコーナー等で上映公開する。

なお、令和２年１月17日に「浜通りのお浜下り」が国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されたことにより、いわき市から新地町までの関係市町村合同で浜下り調査と記録作成事業を進めることになった。この事業に調査員として参画し、調査を行っている。

⑦ 相双地方の焼き物調査（継続）［担当学芸員：堀　耕平］

近世に開窯した大堀相馬焼は、中村藩の外貨獲得に貢献したほか、東北地方から関東地方まで広く流通し、特に東北地方の各窯に影響を与えたといわれている。同窯の製品や作品の調査を行い、その優れた作品、技術等を紹介する展示につなげるための調査を行った。

⑧ 歴史資料の整理と調査（継続）［担当学芸員：森　晃洋］

資料の所蔵者の世代交代が進んでいることもあり、多くの資料が博物館に寄贈・寄託されているが、未整理のままとなっているものが多い。当地方の代表的な古文書群である石神の富田家資料などの整理と調査を行い、これまで公開されていない資料を公開する。また、敷居が高いと思われている古文書の魅力をさまざまな世代に向けて分かりやすく発信した。

・博物館講座「古文書をよむ　鎌倉時代の相馬氏」（講師：岡田清一氏）を開催。

⑨ 戦争体験者からの聞き取り調査（継続）［担当学芸員：森　晃洋］

終戦から70年以上が経過し、戦争の体験者は急速に少なくなり、戦争の記憶は薄れつつある。資料調査に合わせ、戦争体験者３人に聞き取り調査を実施し、体験者の記憶を記録した。

⑩ 市内小中学校所蔵美術品調査（新規）［担当学芸員：二本松文雄］

市内の小中学校が所蔵する絵画、彫刻等の美術品は、各学校が管理しているため、これまで、その内容を把握しきれていなかった。今回、石神中学校所蔵の彫刻群調査を契機として市内各校の現況を確認した。その結果、中原悌二郎、佐藤忠良、船越保武ら日本近代美術史上、著名な彫刻作家の作品多数を確認した。

（３）各学芸員の研究活動

① 寄　稿

二上文彦「残す≒伝わる≒救う」（令和５年１月　未来会議事務局『未来会議2019-2020』）

② 他団体による委嘱等

堀　耕平　：福島県博物館連絡協議会会長、福島県生涯学習審議会委員
二本松文雄：福島県民俗学会幹事、浜通りのお浜下り調査員
二上文彦　：相馬野馬追保存専門委員会委員
森　晃洋　：福島県史学会相双地区幹事
仲川邦広　：福島県生物多様性推進協議会委員、福島県野生動植物保護アドバイザー、福島県植物研究会幹事、福島県農村環境アドバイザー
茂木千恵美：浜通りのお浜下り調査員

（４）その他

新属・新種植物化石「キムリエラ・デンシフォリア」記者発表

開催日：令和４年５月８日
場　所：エントランスホール
出席者：滝本秀夫氏（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）
八巻安夫氏（相馬中村層群研究会会長）
荒　好氏（相馬中村層群研究会副会長）
平　宗雄氏（相馬中村層群研究会、南相馬市博物館収集展示委員）
内　容：2010年、南相馬市内に分布する栃窪層（ジュラ紀後期）から発見された植物化石が、2022年４月４日に発行された日本古生物学会の英文誌論文で新属・新種「*Kimuriella densifolia*（キムリエラ・デンシフォリア）」として発表されたことについて、その概要・意義を解説。

新属・新種植物化石キムリエラ・デンシフォリア」記者発表のようす

５．教育普及事業

（１）講座・体験学習

学芸員および外部講師を招いた講座・体験学習等の実施。

① 講　座　実施回数：11回　参加人数：351人

開催日	内容（タイトル）	講師名［担当学芸員］	参加人数
令和４年 ５月８日	企画展関連講座「震災復興と発掘調査」	荒　淑人学芸員	22

開催日	内容（タイトル）	講師名［担当学芸員］	参加人数
５月14日	史料をよむ「南北朝時代の相馬氏①」	岡田清一氏（東北福祉大学大学院名誉教授）［森　晃洋］	34
７月９日	史料をよむ「南北朝時代の相馬氏②」	岡田清一氏（東北福祉大学大学院名誉教授）［森　晃洋］	33
７月17日	企画展関連講座「野馬追を知る－殿様ご家族のしるし－」	二上裕嗣氏（相馬野馬追保存専門委員長）［二上文彦］	19
８月27日	講談「四谷怪談」	一龍斎貞鏡氏（講談師）、原敬寿氏（金性寺住職）［二本松文雄］	36
９月17日	史料をよむ「南北朝時代の相馬氏③」	岡田清一氏（東北福祉大学大学院名誉教授）［森　晃洋］	28
10月30日	企画展関連平和学習講座「ヒロシマから未来へ　核兵器のない平和な世界を目指して」	西村宏子氏（広島平和記念資料館派遣講師）［堀　耕平］	36
11月19日	史料をよむ「南北朝時代の相馬氏④」	岡田清一氏（東北福祉大学大学院名誉教授）［森　晃洋］	34
令和５年 １月14日	史料をよむ「南北朝時代の相馬氏⑤」	岡田清一氏（東北福祉大学大学院名誉教授）［森　晃洋］	25
２月11日	企画展関連ギャラリートーク「倉科光子植物画展」	倉科光子氏（植物画家）、黒沢高秀氏（福島大学教授）［仲川邦広］	51
３月４日	史料をよむ「南北朝時代の相馬氏⑥」	岡田清一氏（東北福祉大学大学院名誉教授）［森　晃洋］	33

講談「四谷怪談」（令和４年８月27日）

ギャラリートーク「倉科光子植物画展」（令和５年２月11日）

② 体験学習　実施回数：18回　参加人数：273人

開催日	内容（タイトル）	講師名［担当学芸員］	参加人数
令和４年 ４月10日	東ケ丘公園で春の植物を観察しよう	仲川邦広学芸員	15
５月３日	蓄音機コンサート	佐藤晴美氏（蓄音機愛好家）、 二本松文雄学芸員	3
５月５日	香りの宝石せっけんを作ろう	小林香代子氏（ライブラ香りの学校・福島校）	17
５月15日	みる！　きく！　さわる！　－やさしい野鳥観察会－	遠藤政弘氏・中澤洋介氏・岡　栄作氏（日本野鳥の会南相馬）［仲川邦広］	23
５月21日	化石を楽しもう－化石さがし－	平　宗雄氏（南相馬市博物館収集展示委員）、八巻安夫氏（相馬中村層群研究会会長）［二上文彦、仲川邦広］	20

開催日	内容（タイトル）	講師名［担当学芸員］	参加人数
令和４年 ５月22日	化石を楽しもう－化石標本づくり－	平　宗雄氏（南相馬市博物館収集展示委員）、八巻安夫氏（相馬中村層群研究会会長）［二上文彦、仲川邦広］	18
７月31日	夏のキノコを観察しよう！	本多　隆氏・橋本和昭氏（福島きのこの会）［仲川邦広］	14
８月11日	勾玉を作ろう！	二上文彦学芸員	20
８月13日	東ケ丘公園の昆虫を観察しよう！	三田村敏正氏・吉井重幸氏・平澤　桂氏（福島虫の会）［仲川邦広］	20
９日11日	化石のレプリカを作ろう！	八巻安夫氏（相馬中村層群研究会会長）、荒　好氏（相馬中村層群研究会副会長）［二上文彦］	10
10月２日	郷土料理ベンケイを知ろう	川崎　悠学芸員 （調理補助：川崎栄子氏）	6
11月３日	蓄音機コンサート	佐藤晴美氏（蓄音機愛好家）、 二本松文雄学芸員	24
11月６日	化石をさがそう	平　宗雄氏（南相馬市博物館収集展示委員）、八巻安夫氏（相馬中村層群研究会会長）［二上文彦］	18
11月13日	方言であそぼう	小林初夫氏（ＮＨＫ方言監修者）ほか ［二本松文雄］	18
11月27日	方言かるたをつくろう	小林初夫氏（ＮＨＫ方言監修者）ほか ［二本松文雄］	15
12月24日	正月飾り作り	高田求幸氏（南相馬市博物館資料調査協力員）［二本松文雄］	15
令和５年 ３月12日	勾玉を作ろう！	二上文彦学芸員	2
３月19日	蓄音機コンサート（古関裕而特集）	佐藤晴美氏（蓄音機愛好家）、 二本松文雄学芸員	15

③ その他（講演会、バスツアー）　実施回数：2回　参加人数：47人

開催日	内容（タイトル）	講師名［担当学芸員］	参加人数
令和４年 ５月３日	講演会／浪江出身　昭和歌謡の作曲家佐々木俊一	菅野俊之氏（フリーライター）、佐々木英夫氏（佐々木俊一の甥）、佐藤晴美氏（蓄音機愛好家）［二本松文雄］	36
10月16日	バスツアー／史跡巡り（岡田館跡、浪岩横穴古墳、大悲山石仏、相馬小高神社、小高交流センター展示）	二本松文雄学芸員	11

（２）各機関との連携

① 学校等との連携

ア．学校等の見学　実施回数：30回　参加人数：生徒等752人　引率者72人（合計824人）

来館日	学校名	学年	参加人数		内　容［担当学芸員］
			生徒等	引率者	
令和４年 ５月６日	相馬市立磯部小学校	5・6	9	1	社会科（歴史学習）［森　晃洋］
５月10日	石神第二小学校	6	43	4	総合学習（野馬追）、社会科（歴史学習）［二上文彦・森　晃洋］

来館日	学校名	学年	参加人数		内　容［担当学芸員］
			生徒等	引率者	
令和４年 ６月14日	飯舘村立いいたて希望の里学園	4	2	1	社会科見学［森　晃洋］
６月21日	浪江町立なみえ創成中学校	4	45	3	調べ学習「野馬追」［森　晃洋］
６月29日	鹿島小学校	6	63	2	総合学習（南相馬市の歴史／自然・古代・戦争・野馬追）［二上文彦・森　晃洋］
６月30日	上真野小学校	6	16	1	総合学習（野馬追）［二上文彦］
７月12日	上真野小学校	3・4	12	1	総合学習（野馬追）［二上文彦］
７月13日	小高小学校	6	10	1	社会科（歴史学習）［森　晃洋］
７月15日	福島県立小高産業技術高等学校	2	24	2	野馬追、歴史、民俗［二上文彦・森　晃洋］
９月９日	石神中学校	1	51	5	総合学習（地域についての学習）［森　晃洋］
９月17日	福島県立相馬高等学校		4	1	企画展見学（郷土部活動）
９月21日	原町第一中学校	1	118	9	総合学習（地域についての学習）［森　晃洋］
９月22日	南相馬市適応指導教室	小学生 中３	1 2	4	勾玉作り、館内見学［二上文彦］
９月27日	原町第三中学校	1	16	2	総合学習（郷土の歴史）［二上文彦・森　晃洋］
９月27日	桑折町立睦合小学校	5	10	2	館内見学
９月28日	福島大学　むらの大学		3		南相馬の歴史文化
10月12日	福島県立小高産業技術高等学校	2	9	1	無線塔ほか近代史［二上文彦・森　晃洋］
10月14日	福島県立相馬支援学校	高等部 3	6	2	調べ学習（二宮尊徳）［森　晃洋］
10月18日	大甕幼稚園	５歳児	22	3	地域の歴史［二上文彦・相澤桃子］
12月４日	福島大学共生システム理工学類　博物館実習（見学実習）	大学生	3	1	収蔵庫・バックヤード・展示室の見学
令和５年 １月27日	上真野小学校	6	15	1	社会科（戦争と人々のくらし」［森　晃洋］
２月９日	浪江町立なみえ創成小学校	3・4	13	2	社会科（昔の道具、野馬追、歴史）［二本松文雄・二上文彦］
２月10日	原町第一小学校	3	48	4	社会科（昔の道具、野馬追）［二本松文雄・森　晃洋］
２月14日	鹿島小学校	3	61	4	社会科（昔の道具）［二本松文雄・森　晃洋］
２月15日	高平小学校	3	17	2	社会科（昔の道具）［二本松文雄］
２月16日	原町第三小学校	3	66	5	総合的な時間の学習［二本松文雄・二上文彦］
２月16日	上真野小学校	3・4	12	1	社会科（昔の道具）［二本松文雄］
２月17日	小高小学校	3・4	17	3	社会科（昔の道具、小高ゆかりの人物、まちの発達）［二本松文雄・森　晃洋］
２月28日	石神第一小学校	3	11	2	社会科（昔の道具）［二本松文雄］
３月１日	大甕小学校	3	23	2	社会科（昔の道具）［二本松文雄］

イ．出前講座（学校関係）　実施回数：10回　参加人数：児童・生徒309人　教師40人（合計349人）

実施日	学校名	学年	参加人数		内　容［担当学芸員］
			児童･生徒	教師	
令和４年 ５月17日	石神第二小学校	6	43	4	総合学習「野馬追の指旗作り」［二上文彦］
６月22日	原町第一中学校	1	121	5	原町の移り変わり［森　晃洋］
８月18日	原町第二小学校	—	—	17	ふるさとの歴史を学ぶ（石神地区の史跡めぐり）［森　晃洋］
10月26日	小高小学校	4	9	2	副読本でわかる二宮尊徳・富田高慶の教え［森　晃洋］
11月８日	鹿島小学校	4	40	3	副読本でわかる二宮尊徳・富田高慶の教え［森　晃洋］
12月１日	上真野小学校	4	7	1	副読本でわかる二宮尊徳･富田高慶の教え［森　晃洋］
12月６日	石神第二小学校	4	47	4	副読本でわかる二宮尊徳･富田高慶の教え［森　晃洋］
12月９日	浪江町立なみえ創成小学校	3・4	12	2	郷土の発展につくすー報徳仕法［森　晃洋］
令和５年 １月16日	上真野小学校	6	15	1	長く続いた戦争と暮らし（原町飛行場見学）［森　晃洋］
２月15日	高平小学校	6	15	1	勾玉作り［二上文彦］

ウ．中学生職場体験　実施回数：１回　参加人数：３人　［担当学芸員　全員］

実施期間	学校名	学年	参加人数
令和４年 ９月８・９日	石神中学校	2	3

エ．博物館実習　実施回数：１回　参加人数：４人　［担当学芸員　全員］

実施期間	大学名	学部学科	学年	参加人数
令和４年 ８月16～21日	鶴見大学	文学部文化財学科	4	1
	八州学園大学	生涯学習部生涯学習学科	（社会人）	1
	郡山女子大学	短期大学地域創生学科	3	1
	東北芸術工科大学	芸術学部歴史遺産学科	4	1

中学生職場体験　化石のクリーニング（令和４年９月９日）

博物館実習　甲冑の着付け（令和４年８月21日）

② 生涯学習関係機関等との連携

ア．講師派遣（出前講座等）　実施回数：28回　参加人数：746人

実施日	主　催	参加人数	内　容［担当学芸員］　＊はオンライン開催
令和４年 ４月５日	国際ＮＧＯオペレーション･ブレッシング・ジャパン	10	押し花をつくろう［仲川邦広］
４月８日	南相馬市役所総務課	49	新採用職員研修［二上文彦・森　晃洋・仲川邦広］
４月23日	鹿島文化財愛好会	18	中村藩と近代のはじまり［森　晃洋］
４月24日	相馬野馬追紫会	25	古写真で見る近代の野馬追［二上文彦］
４月26日	南相馬市教育委員会学校教育課	10	新採用職員研修［二上文彦・森　晃洋・仲川邦広］
５月25日	ＮＰＯ法人はらまちクラブ	13	野馬追のいまむかし［二上文彦］
５月27日	ＮＰＯ法人はらまちクラブ	7	野馬追のいまむかし［二上文彦］
６月４日	ＮＰＯ法人相馬救援隊	68	＊大人のための「馬×南相馬を知るオンライン授業」［二上文彦］
６月18日	原町生涯学習センター	36	ホタルの観察会［仲川邦広］
６月19日	ＮＰＯ法人南相馬サイエンスラボ	28	サツマイモ・野草の解説（第54回親子農業食育教室「サツマイモの苗植え」）［仲川邦広］
６月23日	南相馬市役所鹿島区地域振興課	11	南相馬市プロジェクト研究　第１回　課外活動「相馬野馬追について学ぼう！」［二上文彦］
７月９日	ＮＰＯ法人相馬救援隊	45	＊相馬野馬追を10倍楽しく見る方法！［二上文彦］
７月22日	相馬地方小学校教育研究会社会科部会	27	小学生に学んでほしい相馬地方の歴史と文化［森　晃洋］
７月27日	千葉市生涯学習センター	20	＊ちばカレッジ2022「千葉氏ゆかりの地①～南相馬市～」［森　晃洋］
７月28日	そうそう地域共生社会推進チーム内　南相馬を無線通信の聖地にする会	8	世界をつないだ白亜の塔・原町無線塔［二上文彦］
８月７日	下太田農地・水環境保全会	21	牛川・用水路に生息する水生動物［仲川邦広］
８月９日	ＮＰＯ法人トイボックス（けやき児童クラブ）	8	化石の宝庫南相馬［二上文彦］
８月11日	ＮＰＯ法人みんな共和国	40	北鳩原川の生きもの観察［仲川邦広］
８月17日	国際ＮＧＯオペレーション･ブレッシング・ジャパン	15	水草と水辺の生き物［仲川邦広］
８月28日	ＮＰＯ法人市民活動ネットワーク相馬	10	中村藩の報徳仕法［森　晃洋］
９月18日	相馬市中央公民館	155	相馬市子ども科学フェスティバル「化石レプリカ作り」［二上文彦・仲川邦広・相澤桃子］
９月29日	ひばり生涯学習センター	16	ひばりすこやか学級（高齢者学級）［仲川邦広］
10月12日	福島県相双建設事務所	15	ふるさとの歴史を学ぶ［森　晃洋］
11月17日	原町ロータリークラブ	9	世界をつないだ白亜の塔・原町無線塔［二上文彦］
12月５日	石神生涯学習センター	13	石神歴史探訪講座「奥相三十三所観音巡りについて」［二本松文雄］
12月28日	ＮＰＯ法人トイボックス（錦町児童クラブ）	16	化石の宝庫　南相馬［二上文彦］
令和５年 １月26日	ひがし生涯学習センター	13	ひがし報徳講座「報徳仕法と徳」［森　晃洋］
２月26日	としょかんのＴＯＭＯみなみそうま	40	人々の心の支えになった南相馬の神社・寺院・教会［二本松文雄］

イ．発表・シンポジウム等　実施回数：１回　参加人数：17人

開催日	主　催	参加人数	内　容［担当学芸員］　＊はオンライン開催
令和５年 ３月24日	福島県博物館連絡協議会	17	＊福島県博物館連絡協議会研究発表会「関東大震災と原町無線塔」［二上文彦］

（３）幼稚園・保育園等出前講座事業

① おでかけみゅーじあむ

市内幼稚園や保育所などに博物館学芸員が訪問するプログラム。

実施回数：10回　参加人数：園児245人、教諭32人、保護者26人（合計：303人）

実施日	団体名など	対　象	参加人数			体験プログラム［担当学芸員］
			園児	教諭	保護者	
令和４年 ６月３日	大甕幼稚園	５歳児	22	3	－	浮くタネ［相澤桃子・仲川邦広］
７月１日	原町聖愛こども園	５歳児	21	2	－	園「浮くタネ(川ver.)＆川辺の生き物」［相澤桃子・茂木千恵美］
８月４日	みなみそうまペンギン国際幼児園	４～５歳児	14	5	－	野馬追の旗［相澤桃子・茂木千恵美］
10月13日	原町聖愛こども園	５歳児	21	2	－	砂鉄［相澤桃子・茂木千恵美］
10月21日	みなみそうまペンギン国際幼児園	４～５歳児	30	4	26	昔のあそび道具 ［相澤桃子・茂木千恵美］
11月２日	大甕幼稚園	５歳児	18	1	－	葉っぱ［相澤桃子・茂木千恵美］
11月11日	北町保育所	５歳児	16	4	－	葉っぱ［相澤桃子・茂木千恵美］
令和５年 １月17日	高平幼稚園	４～５歳児	42	5	－	昔のあそび道具 ［相澤桃子・二本松文雄］
１月18日	さゆり幼稚園	５歳児	31	2	－	昔のあそび道具 ［相澤桃子・二本松文雄］
１月25日	北町保育所	３～５歳児	30	4	－	昔のあそび道具 ［相澤桃子・二本松文雄］

② キッズミュージアム

博物館内において幼児・児童が参加する体験プログラムを複数設置した、子ども向けワークショップ。

実施回数：１回　参加人数：幼児・児童48人　保護者50人（合計：98人）［担当学芸員：全員］

実施日	参加人数		体験プログラム
	幼児・児童	保護者	
令和４年 12月17日	48	50	土偶の顔マグネットづくり、市内史跡と建造物のペーパークラフト、ぬり絵、折り紙、常設展ワークシート

③ こども未来フェスティバルでの出張ワークショップ

南相馬市こども未来部こども家庭課主催、南相馬市こども・子育て応援条例制定記念イベント「こども未来フェスティバル」（会場：ゆめはっと）に参加。出張ワークショップを実施。

実施回数：１回　参加人数：208人

実施日	参加人数	体験プログラム［担当学芸員］
令和４年 11月19日	208	南相馬市の宝物キーホルダーを作ろう！、野馬追の旗を作ろう！、甲冑を着てみよう！［相澤桃子・二上文彦・仲川邦広・茂木千恵美・堀　耕平］

＊①～③の合計参加人数：幼児・児童等501人、教諭32人、保護者76人（合計：609人）

6. その他の事業

（１）博物館理解・活用促進のための無料開館

日　付（曜日）		入館者数
こどもの日	令和４年５月５日（火/祝）	101
国際博物館の日	５月15日（日）	63
福島県民の日	８月20日（土） ８月21日（日）	52 65
敬老の日	９月20日（月/祝）	62
文化の日・東北文化の日	11月３日（日/祝）	106
成人の日	令和５年１月10日（月/祝）	42
合　計		491

（２）他の博物館・機関との連携

① 福島県博物館連絡協議会（令和４～５年度　会長）

総　会　　令和４年８月10日　会場／福島県立美術館
理事会　　令和４年８月10日　会場／福島県立美術館
　　令和５年３月１日　会場／郡山市立美術館
研究発表会　令和５年３月24日　会場／南相馬市博物館
　加盟館学芸員による研究発表会（オンライン）
　当館学芸員４人参加（発表１人、聴講３人）

②「ウクライナの博物館と文化遺産の保全・復旧活動」のための募金箱設置

日本博物館協会とＩＣＯＭ（国際博物館会議）日本委員会共同の取り組みに賛同し「ウクライナの博物館と文化遺産の保全・復旧活動」のための募金箱を、令和４年10月29日、館内に設置した。

③ 展示協力

事　業　　ウクライナ支援チャリティー報告会（主催：希来基金）
期　日　　令和５年２月23日
場　所　　小高生涯学習センター
協力内容　ウクライナの子どもたちの絵・手紙の額装

（３）レファレンス対応

252件　＊７．情報発信（4）記載分も含む

（４）文化財資料収蔵施設整備事業

本市の歴史、民俗、自然科学等の特徴を示す資料や美術工芸品および震災資料を適切に保存するための収蔵施設を整備するものである。令和３年度は、当館資料収集展示委員会の意見等を踏まえ、資料収集基本方針の検討を行った。施設は、既存施設の跡地利用として庁内協議を行ったが、令和４年度、施設の利活用方策が未決定であるため、進捗は足踏み状態である。

スケジュール／令和３年度　資料収集基本方針の策定、施設整備方針の決定
　　４・５年度　整備場所の決定
　　６年度　施設整備工事（改修）設計
　　７年度　施設整備工事（改修）

（５）収蔵品等展示交流事業

台湾南投県竹山鎮との文化交流推進のため、博物館資料の展示交流を行うものであるが、令和３・４年度は、新型コロナ感染症感染拡大の影響により直接渡航ができなかったため、杉並区役所を通じての情報交換にとどまった。

スケジュール／令和３・４年度　情報収集
５年度　現地展示施設下見など事業構築作業
６年度　台湾南投県竹山鎮で展示

７．情報発信

（１）広　報

①「南相馬ミュージアム通信」

年３回、展示会や講座・体験学習などの情報を発信した。

Vol.47　令和４年４月１日発行
Vol.48　　８月１日発行
Vol.49　令和５年１月15日発行
各28,000部

市内全戸配布、市外避難世帯への発送

ミュージアム通信
Vol.47～49

② 展示会ポスター・リーフレット

配布先：福島県内博物館、福島県内教育委員会、相馬地方の各学校、公共施設、市内スーパー、市内旅館・ホテル、首都圏旅行業者　など

種　類	仕様・印刷数等
ポスター	企画展「震災復興と発掘調査」Ｂ２　300枚 企画展「相馬野馬追収蔵資料展」Ｂ２　300枚 企画展「相双地方の被爆体験を伝え継ぐ」Ｂ２　250枚 企画展「ツナミプランツ ―津波浸水域の植物たち―」Ｂ２　300枚
リーフレット	企画展「相馬野馬追収蔵資料展」Ａ４　2,000枚 企画展「相双地方の被爆体験を伝え継ぐ」Ａ４　1,800枚 企画展「ツナミプランツ ―津波浸水域の植物たち―」Ａ４　2,500枚

（２）南相馬市博物館ウェブサイト・ＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）による発信

南相馬市公式ウェブサイト内の博物館サイトにて、展示や体験学習・講座などの催し物、来館案内などの各種情報、出版物の案内、学芸員による連載コラム（「ちょこっと☆みゅーじあむ」：２か月に１度）などを発信している。

また、北海道博物館が運営する「おうちミュージアム」に参加し、自宅等で本市の歴史、文化、自然を楽しく知って学べる取り組みとして「おうちで博物館」を配信している。

さらに、博物館公式ＳＮＳ（令和２年５月運用開始。Facebook、Twitter、YouTube）にて、相馬地方の歴史や自然、文化について紹介するとともに、当館の最新情報や展示・イベントのようすを発信し、市内外の感心層への発信の場として活用している。

当館サイト URL　https://www.city.minamisoma.lg.jp/portal/culture/museum/index.html
Facebook URL　https://www.facebook.com/minamisomashihaku
Twitter URL　https://twitter.com/MinamisomaMuse
YouTube URL　https://www.youtube.com/channel/UC3-Z-0fKZnOVMwZorWRrJRg

① コラム「ちょこっと☆みゅーじあむ」

掲載年月日	テーマ	担当学芸員
令和４年４月１日	チラシは歴史資料	森　晃洋
６月１日	お浜下り	二本松文雄
７月１日	ポスターから見る野馬追　その１	二上文彦
８月１日	文化としての怪談	二本松文雄
10月１日	月見と月待信仰	二本松文雄
12月１日	人の一生と儀礼（七五三、取子、厄年）	二本松文雄
令和５年２月１日	和物（わもの）にみる小動物の吉祥文様	二本松文雄

② おうちで博物館

令和４年度実績　※カッコ内は累積値（2020/5/8～2023/3/31）

・制作コンテンツ数：０本（25本）

③ ＹｏｕＴｕｂｅ

令和４年度実績　※カッコ内は累積値（2020/4/30～2023/3/31）

・新規配信動画数：０本（15本）

・チャンネル視聴回数：46,439回（72,686回）

・チャンネル新規登録者数：208人（424人）

（３）『広報みなみそうま』コラム「おしえて博物館」

南相馬市広報紙『広報みなみそうま』における学芸員連載コラム。毎月掲載。

号　数	テーマ	担当学芸員
令和４年４月号	チラシは歴史資料!?	森　晃洋
５月号	お浜下り	二本松文雄
６月号	相馬地方の巨人伝説・怪異伝説	二本松文雄
７月号	ポスターでみる野馬追	二上文彦
８月号	文化としての怪談	二本松文雄
９月号	キュウリの味噌汁	川崎　悠
10月号	お月見と月待信仰	二本松文雄
11月号	人生儀礼と成長儀礼（七五三・厄年・取子）	二本松文雄
12月号	学芸員のお仕事～古文書の掃除～	森　晃洋
令和５年１月号	雪上のＹ字の正体は…？	二上文彦
２月号	和物にみる小動物の吉祥文様	二本松文雄
３月号	春の植物をさがそう（１）	仲川邦広

（４）記事・放映

① 新聞・テレビ・ラジオ等のマスコミによる記事掲載・放映

掲載年月日等	メディア種別	［番組名］　記事表題・概要	担当学芸員
令和４年 ４月27日付	福島民友新聞	南相馬から新属・新種化石発見 1.6億年前地層、裸子植物の仲間	二上文彦
４月27日付	福島民報	南相馬市産の植物化石新種に　正確な復元に寄与 世界的標本　市博物館が８日発表へ	二上文彦

掲載年月日等	メディア種別	［番組名］　記事表題・概要	担当学芸員
令和４年 ４月29日付	福島民友新聞	震災後の発掘調査資料や出土品展示、 南相馬市博物館が企画展	荒　淑人
４月29日付	福島民報	震災後の遺跡発掘調査の成果紹介 29日から南相馬市博物館で企画展	荒　淑人
５月３日付	福島民報（相双版）	大型連休の施設紹介２　南相馬市博物館	二上文彦
５月９日放映	ＮＨＫ福島放送局	［はまなかあいづ　ＴＯＤＡＹ］復興工事に伴う発掘調査の出土品を展示　南相馬市	荒　淑人
５月10日付	福島民友新聞	新属・新種の化石公開 南相馬市博物館、葉や茎など全体像残る	二上文彦
５月10日付	福島民報	南相馬で発見　新属・新種の植物化石 キムリエラ・デンシフォリア　特別公開始まる 来月12日まで市博物館	二上文彦
５月10日付	読売新聞	南相馬　新種の植物化石　1億6000万年前の地層 葉、花残る状態「奇跡的」	二上文彦
５月11日付	毎日新聞	2010年南相馬で発掘　植物化石　新属新種だった！ 市博物館で無料公開中 命名「キムリエラ・デンシフォリア」	二上文彦
５月19日付	福島民報（相双版）	取材メモから　1億6000万年前の化石」	二上文彦
５月24日放映	ＫＦＢ福島放送	［シェア！］南相馬市博物館紹介	二上文彦
６月23日放映	ＮＨＫ福島放送局	［はまなかあいづ　ＴＯＤＡＹ］ 相馬藩主のものとみられる甲冑発見　来月公開へ	二上文彦
７月８日付	福島民友新聞	相馬中村藩主の甲冑発見 南相馬で７月９日から展示	二上文彦
７月８日付	福島民報	あすから野馬追展　相馬家甲冑初公開 南相馬市博物館	二上文彦
７月10日付	福島民友新聞	中村藩主らの甲冑並ぶ 南相馬で「野馬追資料展」	二上文彦
７月16日掲載	相双ビューロー（ポータルサイト）	令和４年度南相馬市博物館企画展 相馬野馬追収蔵資料展	二上文彦
７月18～20日 放送	ラジオ福島	相馬野馬追～帰ってきた侍～	二上文彦
７月22日付	福島民友新聞	相馬野馬追…かなった「最後の出陣」 20歳の女性武者大木戸さん	二上文彦
８月11日付	読売新聞	福島、夏の伝統行事「相馬野馬追」… 300超の騎馬が織りなす戦国絵巻	二上文彦
９月20日発行	ＮＰＯ法人北海道ＮＰＯサポートセンター	『からから便り』2022年９月号 千年の時を経てつづく相馬野馬追を訪ねて	二上文彦
10月23日付	福島民報	福島県相双地方在住者の広島、長崎被爆体験まとめた企画展始まる 12月11日まで福島県南相馬市博物館	堀　耕平
10月23日付	福島民友新聞	戦争の悲惨さ…後世に 南相馬博物館、被爆体験証言のパネル展	堀　耕平
11月18日放映	ＮＨＫ　Ｅテレ	［ギョギョッとサカナ★スター］ ケムシカジカのタマゴとその醤油漬けの写真	川崎　悠
11月制作	インタナショナル映画㈱（外務省委託）	『JAPAN VIDEO TOPICS 2022/2023 №3』「Soma Nomaoi Horse Festival」	二上文彦
12月６日付	毎日新聞	原爆体験、伝え継ぐ　相双地方在住　20人証言、 スケッチも　11日まで・南相馬で企画展	堀　耕平

掲載年月日等	メディア種別	［番組名］　記事表題・概要	担当学芸員
令和５年 １月３日掲載	Withnews（朝日新聞社ニュースサイト）	家の門に山芋を塗る…「三日とろろ」って？ 昔は「不浄日」の風習も	川崎　悠
１月３日掲載	まいどなニュース (ニュースサイト)	「三日とろろ」ってナニ？ 東日本のお正月文化、縁起良く体にも良い食べ物 「玄関に撒いたり、塗ったり」	川崎　悠
１月10日付	福島民友新聞	野馬追、女性騎馬武者の出場条件検討 南相馬市が初のアンケート	二上文彦
１月20日付	読売新聞	津波で繁茂　貴重な植物描く 倉科さんの15点他　南相馬であすから	仲川邦広
１月21日付	福島民友新聞	津波浸水地の植物描く 南相馬で倉科さん　絶滅危惧種芽吹く姿も	仲川邦広
１月21日付	福島民報	津波浸水域の植物描く 倉科光子さんきょうから作品展　南相馬	仲川邦広
１月24日放映	ＮＨＫ福島放送局	［はまなかあいづ　ＴＯＤＡＹ］ツナミプランツ	仲川邦広
３月４日放映	ＮＨＫ総合（東北）	［ウィークエンド東北］ツナミプランツ	仲川邦広
３月８日放映	ＮＨＫ総合（全国）	［おはよう日本］ツナミプランツ	仲川邦広
３月９日放映	福島テレビ	［テレポートプラス］被災地巡るホープツーリズム にインバウンド客を呼び込め 「多言語音声ガイドシステム」導入	二上文彦
３月10日付	福島民報	多言語音声ガイド体験 南相馬市博物館　訪日誘客へ県ツアー	二上文彦
３月10日付	福島民友新聞	訪日客想定し野馬追紹介	二上文彦

② 南相馬チャンネル「博物館通信」

東日本大震災後に開局し、エリア放送を行っている南相馬チャンネルの番組として、令和４年11月から開始。毎月１回・第３金曜日から１週間放映。

放映月	テーマ	担当学芸員
令和４年11月	企画展「相双地方の被爆体験を伝え継ぐ ― 証言 ヒロシマ・ナガサキのこと ―」	堀　耕平
12月	常設展示「ハラマチクジラ化石」	二上文彦
令和５年１月	ミニテーマコーナー「博物館でみるウサギ」	仲川邦広
２月	企画展「倉科光子植物画展 ツナミプランツ ―津波浸水域の植物たち―」	仲川邦広
３月	常設展示「原の町宿絵図」	森　晃洋

（５）広告の掲載依頼・情報提供

① 南相馬市：広報みなみそうま、南相馬市公式ウェブサイト、南相馬市役所記者クラブ、南相馬市子育てwebサイト「げんきッズ！ネット」
② 福島民報社：情報ナビ「たいむ」
③ 福島県文化センター普及課：『ふくしま文化情報』
④ 日本博物館協会：『博物館研究』
⑤ ふくしま相双エリア情報発信誌『info』
⑥ 福島県空港交流課：ＦＡＦ（福島空港ファンクラブ）通信（メールマガジン）
⑦ EventBankプレス（集客支援サイト）：無料のイベント告知　　など

（６）出版物

① 年　報（令和３年度実施状況）／博物館ホームページに公開

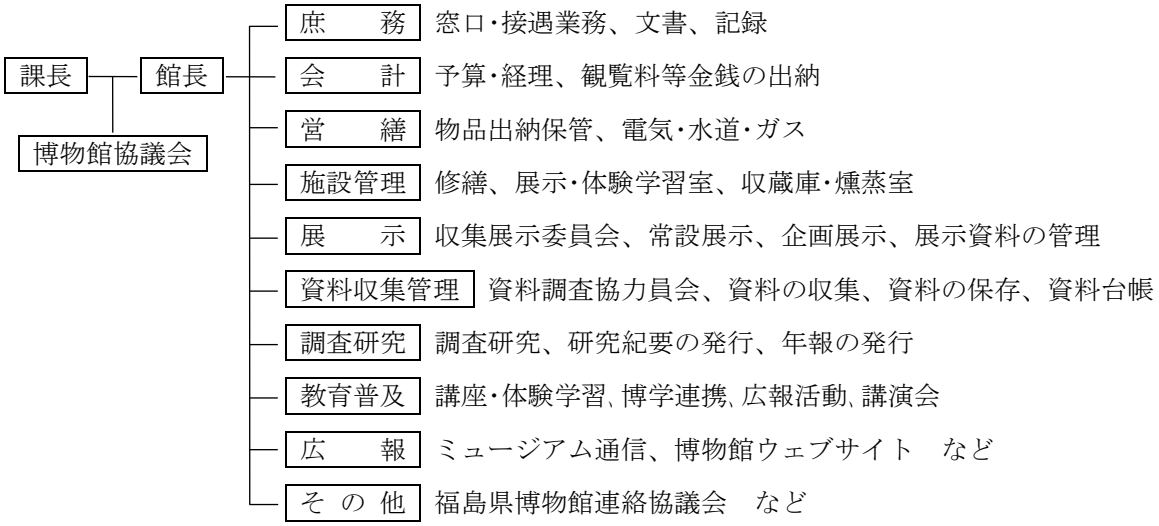
② 展示会関連

- 企画展パンフレット「震災復興と発掘調査」Ａ４　20ページ　1,500部
- 企画展パンフレット「相馬野馬追収蔵資料展」Ａ４　４ページ　2,000部
- 企画展パンフレット「相双地方の被爆体験を伝え継ぐ」Ａ４　４ページ　2,000部

Ⅴ　管理運営

１．組織・職員

（１）博物館組織



（２）職員体制

職　名	氏　名	担当分野	備　考
文化財課長	鈴木　悦子		
博物館長	堀　　耕平	考　古	再任用
主任学芸員	二本松文雄	民　俗	再任用
主任学芸員	二上　文彦	野馬追	
主任学芸員	森　　晃洋	歴　史	
学芸員	仲川　邦広	自　然	
学芸員（会計年度任用職員）	川崎　悠	民　俗／郷土料理	
学芸員（会計年度任用職員）	相澤　桃子	教育普及	
学芸員（会計年度任用職員）	茂木千恵美	（教育普及・歴史）	
事務補助（会計年度任用職員）	高野さとみ		令和４年３月～
事務補助（会計年度任用職員）	山崎　善治		令和４年５月～5年６月
事務補助（会計年度任用職員）	増田　涼		令和４年５月～６月
事務補助（会計年度任用職員）	甲斐　睦実		令和４年５月～
事務補助（会計年度任用職員）	堀込　伶		令和５年２月～

２．各委員会等

（１）博物館協議会

委員名簿（令和４年４月１日～６年３月31日）

役職名	氏　名	所　属
会　長	岩崎　真幸	学識経験者（民俗）
副会長	森　幸彦	学識経験者（考古）
委　員	西　チイ子	南相馬市生涯学習推進委員会
委　員	松本　潤子	南相馬市私立幼稚園協会（原町みなみ幼稚園）
委　員	佐々木晴信	小学校長会（南相馬市立太田小学校長）
委　員	高橋　知宏	中学校長会（南相馬市立鹿島中学校長）
委　員	吉田　浩美	高等学校長会（福島県立原町高等学校長）
委　員	比護　隆之（～令和5.1.31）	一般社団法人南相馬観光協会
	栗村　文夫（令和5.2.1～）	
委　員	岡田　清一	学識経験者（歴史）
委　員	竹谷陽二郎	学識経験者（自然）

［会　議］

・第１回　令和４年５月17日（書面会議）
　協議事項／南相馬市立博物館協議会の会長および副会長の選任について
　報告事項／令和３年度南相馬市立博物館事業の実施状況について
・第２回　令和５年３月２日
　諮　　問／令和５年度南相馬市立博物館事業計画の承認について

（２）収集展示委員会

委員名簿（令和４年４月１日～６年３月31日）

役職名	部　会	氏　名	職　名　等
部会長	自　然	末永　福男	あぶくま生物同好会会員
委　員		岡田　光生	アグリ・ウォッチャー・クラブ代表
委　員		平　　宗雄	日本古生物学会会員
委　員		吉田　　豊	学識経験者
委　員		湯澤　義秀	学識経験者
副委員長・部会長	考　古	玉川　一郎	南相馬市文化財保護審議会委員
委　員		小野田義和	福島県立原町高等学校教諭
委　員		佐藤　悦夫	元広野町立広野中学校教諭
委　員		門馬眞一郎	学識経験者
委　員		森　幸彦	大熊町教育委員会主幹兼主任専門学芸員
委員長・部会長	歴　史	二上　裕嗣	南相馬市文化財保護審議会会長
委　員		藤原　一良	南相馬市文化財保護審議会委員
委　員		猪狩　正志	南相馬市文化財保護審議会委員
委　員		山本富士夫	南相馬市文化財保護審議会委員
部会長	民　俗	岩崎　真幸	福島県文化振興審議会委員

委　員		小林　初夫	日本語学会会員
委　員		丹野香須美	福島県文化財保護審議会委員

［会　議］

・第１回　令和４年10月14日（書面会議）
　報告事項／令和３年度南相馬市立博物館事業の実施状況について
　協議事項／収集展示委員会の部会長、委員長および副委員長の選任について
　　令和４年度南相馬市博物館の事業計画について

・第２回　令和５年１月７日
　報告事項／令和４年度南相馬市立博物館事業報告（中間）について
　協議事項／令和５年度南相馬市立博物館事業計画について

▶ 考古部会　令和４年６月12日
　報告事項／令和３年度の実施状況について
　協議事項／令和４年度の事業計画について

▶ 民俗部会　令和５年３月10日
　報告事項／令和４年度事業実施状況について
　協議事項／令和５年度事業計画(案)について
　　常設展の部分リニューアルについて
　　今後の企画展について

▶ 歴史部会　令和５年３月22日
　報告事項／令和４年度の展示および調査研究について
　協議事項／令和５年度事業計画(案)および調査研究について

▶ 自然部会　令和５年３月26日
　報告事項／令和４年度実施状況について
　協議事項／令和５年度事業計画(案)について
　その他　／常設展のリニューアルについて

（３）資料調査協力員

協力員名簿（令和４年４月１日～６年３月31日）

役職名	地　区	氏　名
会　長	原　町	相良　征一
副会長	小　高	鈴木　敬徳
副会長	鹿　島	八巻　安夫
委　員	原　町	八巻　仁
委　員	原　町	高田　求幸
委　員	原　町	上原　義直

役職名	地　区	氏　名
委　員	原　町	柚原　恒貞
委　員	原　町	門馬　和雄
委　員	小　高	梅田　秀夫
委　員	鹿　島	小林　吉久
委　員	鹿　島	石橋　三男

［調査依頼］

・道標の所在について
・お手玉唄を知っている方について

３．予　算

令和４年度の予算執行状況

［歳　入］

科　目	当初予算額（円）	決算額（円）
博物館観覧料・使用料	1,221,000	1,672,250
博物館書籍頒布代	180,000	314,400
小高町史頒布代	49,000	36,500
鹿島町史頒布代	20,000	8,500
原町市史頒布代	92,000	116,000
自動販売機設置電気料	18,000	18,691
東ケ家丘公園電気料	32,000	84,207
現年発生単独災害復旧事業債	0	100,000
合　計	1,612,000	2,350,548

［歳　出］

事業名	当初予算額（円）	決算額（円）
博物館協議会委員費	225,000	89,330
美術品等購入選定委員会委員費	0	0
博物館管理運営事業	28,672,000	30,882,495
新型コロナウイルス感染症対策費	46,000	50,534
博物館営繕事業	22,253,000	20,460,000
収蔵品等展示交流事業	97,000	0
博物館企画展示事業	1,314,000	1,814,906
博物館学芸調査事業	1,561,000	2,229,260
博物館体験学習・講座事業	680,000	608,868
現年発生単独災害復旧事業	0	165,000
合　計	54,848,000	56,300,393

４．入館者統計等

（１）令和４年度博物館入館者数・利用者数

入館者数				その他利用者数	合計人数	開館日数
一般	高校生	小・中学生	小　計			
5,855	73	947	6,875	2,463	9,338	304

その他利用者数内訳

利用事由		件　数	利用者数
講座・体験学習・バスツアー・企画展関連事業		31	678
出前講座（講師派遣）	学校関係	10	349
	一　般	28	746
発表・シンポジウム		1	17

利用事由	件　数	利用者数
幼稚園・保育園等出前講座事業	11	401
博物館実習受け入れ	4	4
職場体験受け入れ	1	3
他団体との連携等取材・レファレンス	252	265
合　計	338	2463

（２）令和４年度博物館入館者数月別集計表

＊小数点以下四捨五入

年　月	入館者数				開館日数	１日平均入館者数
	一　般	高校生	小・中学生	小　計		
令和４年４月	370	7	27	404	26	16
５月	537	2	90	629	26	24
６月	341	3	130	474	26	18
７月	906	29	66	1,001	26	39
８月	452	2	80	534	26	21
９月	363	8	225	596	26	23
10月	356	16	8	380	26	15
11月	396	0	10	406	26	16
12月	225	5	59	289	22	13
令和５年１月	293	0	26	319	23	14
２月	475	0	186	661	24	28
３月	1,141	1	40	1,182	27	44
合　計	5,855	73	947	6,875	304	23

（３）平成７年度～令和４年度博物館入館者数

＊小数点以下四捨五入

年　度	入館者数				開館日数	１日平均入館者数
	一　般	高校生	小・中学生	小　計		
平成７年度	―	―	―	19,604	186	105
８年度	12,648	147	2,025	14,820	304	49
９年度	10,690	183	1,965	12,838	302	43
10年度	9,768	372	1,756	11,896	307	39
11年度	9,744	82	1,593	11,419	309	37
12年度	8,589	115	2,437	11,141	313	36
13年度	10,253	85	2,539	12,877	315	41
14年度	8,536	111	2,184	10,831	312	35
15年度	10,487	237	3,388	14,112	307	46
16年度	10,008	174	2,892	13,074	303	43
17年度	13,279	201	3,480	16,960	304	56
18年度	10,422	198	3,538	14,158	308	46
19年度	11,294	61	3,709	15,064	302	50
20年度	10,153	64	3,129	13,346	309	43
21年度	8,458	108	3,058	11,624	301	39
22年度	8,387	143	3,251	11,781	288	41

年　度	入館者数				開館日数	１日平均入館者数
	一　般	高校生	小・中学生	小　計		
23年度	1,889	6	414	2,309	195	12
24年度	5,106	29	1,842	6,977	308	23
25年度	5,793	47	1,480	7,320	306	24
26年度	7,044	89	1,541	8,674	308	28
27年度	9,205	119	1,324	10,648	308	35
28年度	6,996	106	1,182	8,284	307	27
29年度	6,522	82	1,340	7,944	306	26
30年度	6,306	96	1,138	7,540	301	25
令和元年度	5,417	59	1,326	6,802	309	22
2 年度	3,350	57	885	4,292	259	17
3 年度	4,453	35	861	5,349	255	21
4 年度	5,855	73	947	6,875	304	23
合　計	220,652	3079	55,224	298,559	8236	36

Ⅵ　資　料

１．南相馬市立博物館条例

平成18年1月1日
条例第203号

(設置)
第１条　博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条及び地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条第１項の規定に基づき、歴史、民俗、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して市民の学習、学術及び文化の発展に資するため、南相馬市立博物館（以下「博物館」という。）を設置する。
(名称及び位置)
第２条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。
　名称　南相馬市博物館
　位置　南相馬市原町区牛来字出口194番地
(事業)
第３条　博物館は、次に掲げる事業を行う。
(1)　歴史、民俗、考古、自然科学等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム等の資料（以下「博物館の資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
(2)　博物館の資料に関する専門的かつ技術的な調査研究を行うこと。
(3)　博物館の資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
(4)　博物館の資料の利用に関し必要な説明、助言及び指導を行うこと。
(5)　前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な事業を行うこと。
(観覧料)
第４条　博物館の展示品（以下「展示品」という。）の観覧料は、別表のとおりとする。
２　市長は、期間を定めて特別の展示その他特別の催しを行う場合には、前項の規定にかかわらず、1,000円を越えない範囲内で別に観覧料を定めることができる。
３　展示品を観覧しようとする者は、観覧料を入館の際に納入しなければならない。
(観覧料の減免)
第５条　市長は、公益上必要があると認めるときは、前条の観覧料を減額し、又は免除することができる。
(利用の制限)
第６条　南相馬市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、博物館の利用を拒むことができる。
(1)　適当な指導者又は付添人のない６歳未満の者

(2) 泥酔者
(3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人の迷惑となるおそれのある物品を携帯し、又は動物を伴う者
(4) 係員の指示に従わない者
(5) 前各号に掲げる者のほか、博物館の管理上支障を及ぼすおそれがあると認めた者

(協議会)
第７条 博物館法第20条第1項の規定に基づき、南相馬市立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。
２ 協議会の委員の定数は、10人以内とする。
３ 協議会の委員の任期は、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
４ 前２項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

(委員会)
第８条 博物館の収蔵及び展示資料購入の選定に関して調査審議を行わせるため、市長の附属機関として南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会（以下「委員会」という。）を置くことができる。
２ 委員会は、前項の調査審議を行うほか、収蔵及び展示資料購入に関して市長又はその委任を受けた者に対して指導助言を行うことができる。
３ 委員会は、20人以内の委員をもって構成する。
４ 前条第３項及び第４項の規定は、委員会について準用する。

(委任)
第９条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則
(施行期日)
１ この条例は、平成18年１月１日から施行する。

(経過措置)
２ この条例の施行の日の前日までに、合併前の小高町埴谷・島尾記念文学資料館条例（平成12年小高町条例第21号）、鹿島町歴史民俗資料館条例（昭和56年鹿島町条例第11号）又は原町市博物館条例（平成6年原町市条例第34号）の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの条例の相当規定によりなされたものとみなす。

附 則（平成18年条例第243号）
この条例は、公布の日から施行し、改正後の南相馬市附属機関設置条例等の一部を改正する条例の規定は、平成18年１月１日から適用する。

附 則（平成18年条例第285号）
この条例は、平成19年４月１日から施行する。

附 則（平成24年３月28日条例第12号）
この条例は、平成24年４月１日から施行する。

附 則（平成24年12月20日条例第40号）
この条例は、公布の日から施行する。

別表（第４条関係）
南相馬市博物館観覧料

区 分	観覧料の額（1人につき）	
	個 人	団 体
一般	300円	250円
高校生	200円	150円
中学生及び小学生	100円	80円

備考
1 「団体」とは、20人以上の団体をいう。
2 引率者については、20人に１人の割合で無料とする。

２．南相馬市立博物館規則

平成18年1月1日
教育委員会規則第39号

(趣旨)
第１条 この規則は、南相馬市立博物館条例（平成18年南相馬市条例第203号。以下「条例」という。）の施行に関し

必要な事項を定めるものとする。

（休館日）

第２条　南相馬市立博物館（以下「博物館」という。）の休館日は、次のとおりとする。

(1)　月曜日(休日に当たるときは、その直後の平日（日曜日及び祝日以外の日をいう。))

(2)　１月１日から同月３日まで及び12月29日から同月31日までの日

２　前項の規定にかかわらず、南相馬市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、特に必要があると認めたときは、臨時に休館し、又は前項に規定する休館日に臨時に開館することができる。

（開館時間等）

第３条　博物館の開館時間は、午前９時から午後4時45分までとする。ただし、博物館に入館できる時間（以下「入館時間」という。）は、午前９時から午後４時までとする。

２　前項の規定にかかわらず、教育委員会は、特に必要があると認めるときは、同項に規定する開館時間又は入館時間を臨時に変更することができる。

（観覧券の交付）

第４条　博物館の館長（以下「館長」という。）は、条例第４条の規定による観覧料を納入した者に対し、観覧券（様式第１号）を交付するものとする。

（観覧料の減免及びその手続）

第５条　条例第５条の規定により、次の各号に掲げる場合においては、それぞれ当該各号に定める額の観覧料を減額し、又は免除するものとする。

(1)　市の区域内に存する小学校、中学校及び高等学校の児童生徒並びに市内に住所を有する小学生、中学生及び高校生が観覧するとき　全額

(2)　市の区域外に存する小学校、中学校及び高等学校の児童生徒が学校教育活動として観覧するとき　半額（引率者にあっては全額）

(3)　市が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき　全額

(4)　他の地方公共団体が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき　半額（引率者にあっては全額）

(5)　前４号に掲げる場合のほか、減免をすることが公益上適当であると認めるとき　全額

２　前項の規定により観覧料の減免を受けようとする者（前項第１号に規定する者を除く。)は、観覧しようとする日までに観覧料減免申請書（様式第２号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、休日その他特別の日に博物館を開放する場合は、この限りでない。

３　館長は、前項本文の規定により観覧料の減免を承認したときは、観覧料減免承認書（様式第３号）を交付するものとする。

（遵守事項）

第６条　博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1)　博物館の施設、設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。

(2)　館長の承認を得ないで、展示品の模写又は撮影をしないこと。

(3)　所定の場所以外において、喫煙又は飲食をしないこと。

(4)　前３号に掲げるもののほか、館長が指示する事項

（損害賠償）

第７条　博物館を利用する者が故意又は過失により博物館の施設、設備、展示品等を損傷し、又は滅失したときは、教育委員会の定めるところにより、その損害を賠償しなければならない。

（協議会）

第８条　南相馬市立博物館協議会（以下「協議会」という。）に会長及び副会長を１人置き、委員の互選により定める。

２　会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

３　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

第９条　協議会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

２　協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければこれを開くことができない。

３　協議会の会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

４　協議会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

（資料の寄託）

第１０条　博物館は、展示又は調査研究の目的で博物館に収蔵する資料（以下「資料」という。）の寄託を受けることができる。

２　博物館に資料を寄託しようとする者は、南相馬市立博物館収蔵資料寄託申出書（様式第４号）により館長に申し出るものとする。

3　館長は、前項の規定により資料の寄託の申出があった場合において、博物館の資料として当該寄託資料を保管し、又は一般の利用に供することが適当と認めるものについて受託することができる。
4　館長は、資料を受託したときは、南相馬市立博物館収蔵資料受託書（様式第５号）を寄託者に交付する。
5　館長は、受託した資料を展示する場合において、寄託者の同意があるときは、当該寄託資料に寄託者の氏名等を表示することができる。

（寄託期間等）
第１１条　館長は、受託した資料については、原則として２年間受託するものとし、博物館の資料の管理上支障があるとき、又は寄託に際して博物館と寄託者の間に寄託期間の定めがある場合において寄託期間が満了したときは、受託した資料を寄託者に返還するものとする。
2　館長は、受託した資料について、博物館と寄託者の間に寄託期間の定めがある場合において寄託期間が満了する日の１月前までに寄託者から別段の申出がないときは、その満了の日の翌日から起算して1年間寄託を継続する旨の申出があったものとみなして、当該寄託期間を延長するものとする。その延長に係る寄託期間が満了した場合も、同様とする。

（寄託等に要する費用の負担）
第１２条　資料の寄託及び返還に要する運搬費その他の費用は、寄託者の負担とする。ただし、館長が特に理由があると認めるときは、この限りでない。

（寄託資料の損害賠償）
第１３条　博物館の責めに帰することができない理由により、受託した資料を亡失し、又はき損したときは、博物館は、その損害賠償の責めを負わない。

（資料の寄贈）
第１４条　博物館に資料を寄贈しようとする者は、南相馬市立博物館収蔵資料寄贈申出書（様式第６号）により館長に申し出るものとする。
2　館長は、前項の規定により資料の寄贈の申出があった場合において、博物館の資料として適当と認めるものについて受納することができる。
3　館長は、資料を受納したときは、南相馬市立博物館収蔵資料受納書（様式第７号）を寄贈者に交付する。

（寄贈資料の取扱い）
第１５条　館長は、寄贈された資料を展示する場合において、寄贈者から申出があるときは、当該寄贈資料に寄贈者の氏名等を表示することができる。

（寄贈に要する費用の負担）
第１６条　第１２条の規定は、寄贈に要する費用の負担について準用する。

（資料の館外貸出し）
第１７条　博物館の資料は、貸出しすることができる。
2　資料の貸出しを受けることができる者は、国立の博物館、博物館法（昭和26年法律第285号）第２条第１項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣及び都道府県の教育委員会が指定した博物館に相当する施設とする。
3　資料の館外貸出しを受けようとする者は、市立博物館館外貸出許可申請書（様式第８号）を提出し、館長から市立博物館館外貸出許可書（様式第９号）の交付を受けなければならない。

（事業計画の作成及び報告）
第１８条　館長は、毎年翌年度において実施しようとする事業計画を協議会へ諮問し、年度末までに南相馬市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）の承認を受けなければならない。
2　館長は、年度終了後1箇月以内に事業計画の実施状況を取りまとめ、協議会を経て教育長に報告しなければならない。

（博物館の警備及び防災）
第１９条　館長は、年度始めに博物館に関する警備及び防災計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

（その他）
第２０条　この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附　則

（施行期日）
1　この規則は、平成18年１月１日から施行する。

（経過措置）
2　この規則の施行の日の前日までに、合併前の小高町埴谷・島尾記念文学資料館管理規則（平成12年小高町教育委員会規則第12号）、鹿島町歴史民俗資料館条例施行規則（昭和56年鹿島町教育委員会規則第１号）又は原

町市博物館規則（平成７年原町市規則第1号）の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、それぞれこの規則の相当規定によりなされたものとみなす。

附　則（平成18年教委規則第51号）

この規則は、平成19年４月１日から施行する。

附　則（平成20年教委規則第5号）

この規則は、平成20年４月１日から施行する。

附　則（平成24年３月30日教委規則第２号）

この規則は、平成24年４月１日から施行する。

附　則（平成24年12月20日教委規則第７号）

（施行期日）

１　この規則は、公布の日から施行する。

（様式に関する経過措置）

２　この規則の施行の際、この規則による改正前の南相馬市立博物館規則の規定により作成されている様式書類は、なお当分の間これを使用することができる。

様式第１号（第４条関係）
様式第２号（第５条関係）
様式第３号（第５条関係）
様式第４号（第10条関係）
様式第５号（第10条関係）
様式第６号（第14条関係）
様式第７号（第14条関係）
様式第８号（第17条関係）
様式第９号（第17条関係）

３．南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会要綱

平成18年1月1日
教育委員会告示第11号

（趣旨）

第１条　この告示は、南相馬市立博物館条例（平成18年度南相馬市条例第203号。以下「条例」という。）第８条の規定に基づき、南相馬市立博物館美術品等購入選定委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第２条　委員会に委員長及び副委員長を１人置き、委員の互選により定める。

２　委員長は、委員会を代表し、会務を掌理する。

３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

（任務）

第３条　委員の任務は、教育長の諮問に応じ、次のとおりとする。

(1)　南相馬市立博物館の収蔵資料購入の選定

(2)　南相馬市立博物館の展示資料購入の選定

(3)　前２号に掲げるもののほか、収蔵及び展示資料購入に係る指導助言

（専門部会）

第４条　専門的な調査選定を行うため、委員会に専門部会を置き、必要に応じて審議する。

２　専門部会は、甲冑部会、刀剣部会、図書部会及び美術工芸部会とし、委員会の委員をもって構成する。

３　各専門部会の委員は、５人以内とする。

（会議）

第５条　委員会及び専門部会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

２　委員長は、委員会及び専門部会の会議の審議結果を南相馬市教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に答申する。

（庶務）

第６条　委員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。

（その他）

第７条　この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附　則

この告示は、平成18年１月１日から施行する。

４．南相馬市博物館収集展示委員会設置要綱

(設置)
第１条　南相馬市博物館（以下「博物館」という。）に収蔵する資料の収集並びに展示計画について専門的な指導助言を得るため、南相馬市博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
(組織)
第２条　委員会は、２０人以内の委員をもって構成する。
２　委員会の委員は、南相馬市教育委員会が委嘱する。
３　委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長副委員長は、委員の互選により選出する。
４　委員長は、委員会を代表し、会務を掌理する。
５　副委員長は、委員長を補佐し、委員長事故あるときは、その職務を代理する。
(任務)
第３条　委員の任務は、教育長の求めに応じ、次のとおりとする。
一　博物館の収蔵資料の収集及び情報の提供。
二　収蔵資料の調査研究にかかる指導助言。
三　収蔵資料の展示計画及び展示にかかる指導助言。
(専門部会)
第４条　専門的な調査研究を行うため、委員会に専門部会を置くことができる。
２　専門部会は、歴史部会、民俗部会、考古部会、自然部会とし委員会の委員をもって構成する。
３　専門部会に部会長を置き、部会に属する専門的事項を掌る。
(任期)
第５条　委員会の委員の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。
２　委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
(会議)
第６条　委員会の会議は、委員長が招集し、専門部会は、部会長が随時招集することができる。
２　部会長は、専門部会の会議の内容を委員長に報告し、委員会の会議については、委員長が専門部会の内容も含めて教育長に報告する。
３　委員長が特に必要と認めた場合には、専門的分野に関する学識経験者を特別委員として委嘱するよう教育長に具申することができる。
(庶務)
第７条　委員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。
(その他)
第８条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育長が定める。
付　則
この要綱は、平成１８年１月１日から施行する。

５．南相馬市博物館収集展示委員会運営細則

(目的)
第１条　南相馬市博物館収集展示委員会の円滑な運営を図るため、同設置要綱第８条の規定により、運営に関し必要な事項を定める。
(組織)
第２条　専門部会は、５人以内の委員をもって構成する。
２　専門部会の部会長は、部員の互選により選出する。
(専門部会の任務)
第３条　専門部会の任務は、次のとおりとする。
一　部会に属する資料の調査、収集、保管、展示にかかる指導助言
二　常設展、企画展等の展示計画並びに展示方法・期間にかかる指導助言
三　部会相互の情報交換と連携・協力
(会議)
第４条　委員会の会議は、毎年４月と１０月の２回招集し、委員長がその議長となる。
２　専門部会は、その部会に属する企画展の開催１年前までに招集し、部会長がとりまとめる。

３　企画展にかかる専門部会は、２回以上招集する。
４　専門部会の部会長は、企画展の計画案を委員会に提案し、承認を得る。
５　部会長は、企画展の実施状況をとりまとめ、委員会に報告する。
（庶務）
第５条　専門部会に関する庶務は、南相馬市博物館の担当学芸員が処理する。
付　則
この運営細則は、平成１８年１月１日から施行する。

６．南相馬市博物館資料調査協力員会設置要綱

（目的）
第１条　この要綱は、南相馬市博物館に収蔵する資料の収集にあたり、資料の所在情報を得るため南相馬市博物館資料調査協力員会（以下「協力員会」という。）を設置する。
（組織）
第２条　協力員会は、３０人以内の協力員を持って構成する。
２　協力員会の協力員は、南相馬市教育委員会が委嘱する。
３　協力員会に会長及び副会長を置き、会長、副会長は、協力員の互選により選出する。
４　会長は、協力員会を代表し、会務を掌理する。
５　副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。
（任務）
第３条　協力員の任務は南相馬市博物館館長（以下「館長」という。）の求めに応じ次のとおりとする。
一　資料所在の情報提供
二　資料所有者の紹介
三　資料の収集協力
（任期）
第４条　協力員会の協力員の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。
２　協力員に欠員が生じた場合の補欠の協力員の任期は、前任者の残任期間とする。
（会議）
第５条　協力員会の会議は、会長が招集し、部会は部会長が随時招集することができる。
２　会長は、協力員会の会議の内容を、部会長は部会の会議の内容を館長に報告する。
（庶務）
第６条　協力員会の庶務は、南相馬市博物館において処理する。
（その他）
第７条　この要綱に定めるもののほか、協力員会の運営に関し必要な事項は、教育長が定める。
付　則
この要綱は、平成１８年１月１日から施行する。
付　則
この要綱は、平成１９年４月１日から施行する。

南相馬市博物館　令和４年度　年報

令和５年９月　発行

編　集　南相馬市博物館
〒975-0051　福島県南相馬市原町区牛来字出口194番地
TEL 0244 (23) 6421　　FAX 0244 (24) 6933
https:www.city.minamisoma.lg.jp
E-mail:hakubutsukan@minamisoma.lg.jp